

南牧村人口ビジョン・
第三期南牧村
まち・ひと・しごと創生
総合戦略



令和7年3月
南 牧 村

目 次

第1部 人口ビジョン	1
第1章 南牧村人口ビジョンの策定にあたって	2
1 人口ビジョン策定の目的	2
2 人口ビジョンの位置付け	2
3 目標年度	2
4 我が国の地方創生の現状	3
5 南牧村の概況	5
第2章 人口の現状分析	6
1 人口推移・人口構造	6
2 人口動態	13
3 就業人口	18
第3章 人口推計と将来展望	20
1 将来人口推計	20
2 人口の将来展望にかかる村民意識等	22
3 人口の将来展望	40
第2部 総合戦略	41
第1章 総合戦略策定にあたって	42
1 総合戦略の背景と目的	42
2 南牧村第6次総合計画との関係	42
3 総合戦略の計画期間	43
第2章 第三期南牧村総合戦略の考え方	44
1 基本的考え方	44
2 ポイント	44
3 デジタルの力を活用した地方の社会課題解決	44
4 南牧村の基本理念	45
5 基本目標の設定	46
第3章 基本目標ごとの施策の展開	47
基本目標1 稼ぐ南牧村をつくとともに、安心して働けるようにします	47
基本目標2 他の地域とつながり、南牧村への新しい人の流れをつくります	51
基本目標3 若い世代の定住を促進し、結婚・出産・子育ての希望をかなえます	54
基本目標4 ひとが集う、安全で安心に暮らせる魅力的な南牧村をつくります	58
第4章 総合戦略の推進と効果検証の仕組み	64
1 推進と効果検証の仕組み	64
2 計画のフォローアップ	65

第1部

人口ビジョン



第1章 南牧村人口ビジョンの策定にあたって

1 人口ビジョン策定の目的

南牧村では、ピーク時には4,000人ほどいた人口は、現在は3,000人程度まで減少しています。また、高齢者の人口（65歳以上）の比率は30.0%を超え、少子高齢化が進んでいます。

この傾向が続けば、担い手不足による地域の活力や機能の低下、村民の生活を支える社会基盤の維持管理にかかる費用のほか、社会保障費の増加による行財政の悪化など、さまざまな影響が懸念されます。

南牧村人口ビジョンは、本村における人口の現状を分析し、今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を提示するもので、人口に関し、村民と認識を共有するとともに、本村におけるまち・ひと・しごと創生の実現に向けて効果的な施策の企画・立案する上での重要な基礎として位置付けます。

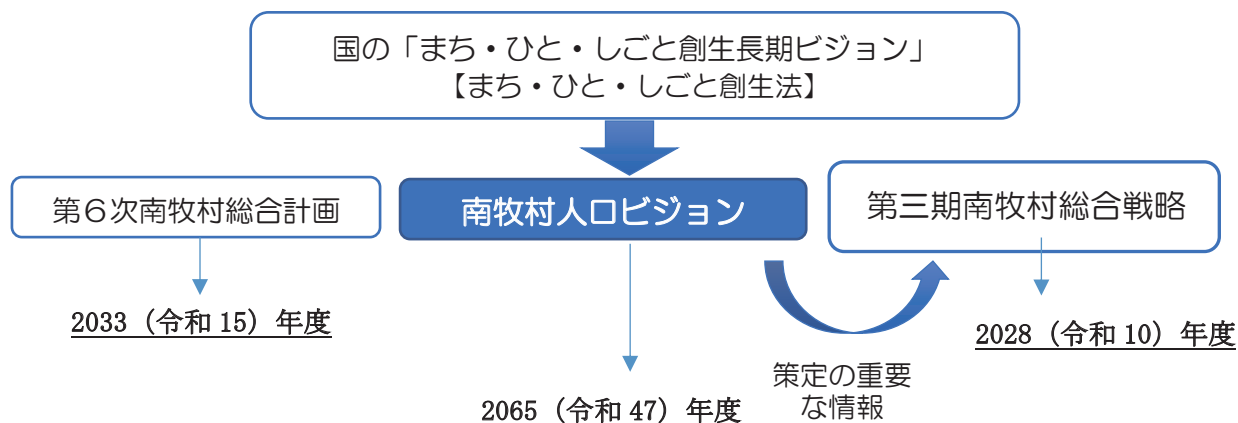
2 人口ビジョンの位置付け

南牧村人口ビジョンは、2014（平成26）年11月に成立した「まち・ひと・しごと創生法」に基づく国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」（令和元年12月改訂版）を踏まえて、本村の人口の現状を分析し、人口に対する村民の認識を共有するとともに、本村が今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を示したものです。

また、2024（令和6）年3月に策定した「南牧村第6次総合計画＜～2033（令和15）年度＞」よりも長期の人口展望を定めるものであり、人口減少抑制の視点から本村の今後4か年の効果的な施策を立案する「第三期南牧村まち・ひと・しごと創生総合戦略＜2025（令和7）年度～2028（令和10）年度＞」（本編第2部）を策定するための重要な情報とするものです。

3 目標年度

人口ビジョンの目標年度は、2065（令和47）年度とします。



4 我が国の地方創生の現状

地方創生は、日本が直面する人口減少・少子高齢化という構造的な課題について、その危機感を国・地域全体で広く共有し、対応していくため、2014（平成26）年に制定された「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、国を挙げて取り組んでいる政策です。

同法に基づき、国においては、2015（平成27）年から2019（令和元）年度までを期間とした「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定して以降、人口減少や東京圏（東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県）への一極集中解消に対応する取組みを推進してきました。

しかしながら、2024年1月の人口戦略会議の提言では、以下のとおりとなっています。

日本は、ついに本格的な「人口減少時代」に突入しました。すでに数十年前から、子どもの数が減っていく少子化は始まっていましたが、それでも総人口は増えつづけ、2008年をピークに減少に転じた後も減少幅は大きくはありませんでした。しかし、これから事態は大きく変わっていきます。

生産年齢人口とされる15歳から64歳の人口は、現在（2023年）約7400万人ですが、それが2040年までに約1200万人減少し、その後もさらに減りつづけます。現在1億2400万人の総人口も、このまま推移すると、年間100万人のペースで減っていき、わずか76年後の2100年には6300万人に半減すると推計されています。

100年近く前の1930年の総人口が同程度でしたので、単に昔に戻るかのようなイメージを持つかも知れませんが、それは事態の深刻さを過小評価するものです。当時は、高齢化率（総人口の中で65歳以上の高齢者が占める割合）が4.8%の若々しい国でしたが、2100年の日本は高齢化率が40%の「年老いた国」です。

このような急激な人口減少を前にして、日本の社会は、経済は、そして、地域は持続可能なのだろうか、これからの行末に不安を抱く国民は多いでしょう。このまま少子化に慣れてしまい、流れに身を任せるだけならば、日本とその国民が、人口減少という巨大な渦の中に沈みつづけていくことは明らかです。

10年前の2014年は、人口問題をめぐり大きな動きがあった年でした。2014年5月に民間組織の日本創成会議が、人口減少をストップさせ、地方を元気にしていく「ストップ少子化・地方元気戦略」を提言するとともに、このままでは将来消滅する可能性がある896自治体を発表しました。11月には、経済財政諮問会議の「選択する未来」委員会が、政府に対して「人口急減・超高齢化を克服し、人口が50年後においても1億人程度の規模を有し、将来的に安定した人口構造を保持することを目指すべきである」と提言しました。人口問題に正面から取り組むべきだとする、これらの提言は大きな反響を呼びました。

一方、現実の動きはどうだったのでしょうか。出生率（合計特殊出生率）は2015年に1.45まで上昇した後、再び下降しはじめ、現在（2022年）は過去最低の1.26まで低下しています。年間出生数も、2016年に100万人の大台を割った後、一気に77万人（2022年）まで低下し、少子化の流れには全く歯止めがかかっていません。「地方消滅」の要因の一つとされている、若年男女が東京圏へ流入する「東京一極集中」の傾向も、依然として変わっていません。

本提言では、「基本的課題」として三点あげています。

第一は、政府も民間も、人口減少の要因や対策について英知を結集して調査分析を行わず、その深刻な影響と予防の重要性について、国民へ十分な情報共有を図ってこなかったのではないかと、ということです。我が国では、出生率の向上というテーマは、かつての「産めよ殖やせよ」という人口政策への反省もあり、個人の価値観に関わる領域であることを理由に長らくタブー視され、人口減少の問題は、一部の政府関係者や有識者といった限られた範囲での論議にとどまっていたくらいがあります。しかし、人口減少問題は、どのような価値観を持った人にも降りかかり、やがて、否応なしに社会全体の持続可能性を崩していくものです。公的年金制度は典型例です。若い人たちが減っていくと、老後も自立した生活をいくら送りたいと願っても、全ての高齢者の年金受取額が減少していくことは避けられません。このような人口減少が将来引き起こす“重大な事態”について、経済界をはじめ民間へ、さらに国民へ積極的に情報を発信し、意識の共有を進めていく努力が十分になされてきたとは言えません。

第二は、若者、特に育児負担が集中している女性の意識や実態を重視し、政策に反映させるという姿勢が十分ではなかったのではないかと、ということです。

そして、第三は、今を生きる「現世代」には、社会や地域をしっかりと「将来世代」に継承していくという点で、後世に対する重い責任があることを正面から問いかけてこなかったのではないかと、ということです。

今後は、こうした基本的課題を念頭に置いた上で、取り組んでいかなければなりません。本提言では、今世紀の終わりにあたる2100年を視野に据えて、私たちが目指すべき目標を提示しています。その第一は、総人口が“急激”かつ“止めどもなく”減少しつづける状態から脱し、2100年までに8000万人の水準で安定化させることによって、国民が確固たる将来展望が持てるようにすることです。そして、第二は、現在より小さい人口規模であっても、多様性に富んだ成長力のある社会を構築することです。

5 南牧村の概況

本村は長野県の東南端に位置し、東西、南北とも約16km、面積約133km²を有しています。北は小海町、東は川上村と南相木村に、南は山梨県北杜市に、西は八ヶ岳連峰を境として茅野市に接しています。八ヶ岳連峰東斜面の山岳地帯と標高1,300～1,400mの高原、村域東側を南北に流れる千曲川流域の開かれた平地からなる自然環境に恵まれた地域です。

周りを山に囲まれた平坦な地形で、寒冷地でありながら雪が少ないことなどから、電波の観測に最適な場所として国立天文台が設置されており、日本で有数の星がきれいに見える地域となっています。

夏は涼しく、冬は寒さが厳しい気候であり、8月の平均最高気温は25度前後、1月の平均最低気温はマイナス12度前後で推移しています。



本村においては、国の枠組を踏まえ、2022（令和3）年に「南牧村人口ビジョン」とともに、2024（令和6）年度までを計画期間とした「第二期南牧村まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、「安全・安心 野菜村 自然いっぱい 野菜も大盛り 星空が見守る 南牧」の特色を活かした、持続可能なむらづくりに向けて戦略的かつ総合的に対策に取り組んできました。この間、本村の合計特殊出生率の上昇や転出超過数の減少の傾向がみられ、人口減少を一定程度抑制する効果はうかがえるものの、若年層を中心に周辺自治体や東京圏への人口流出は続いています。

次章において、本村の人口等の現状について具体的に把握・分析します。

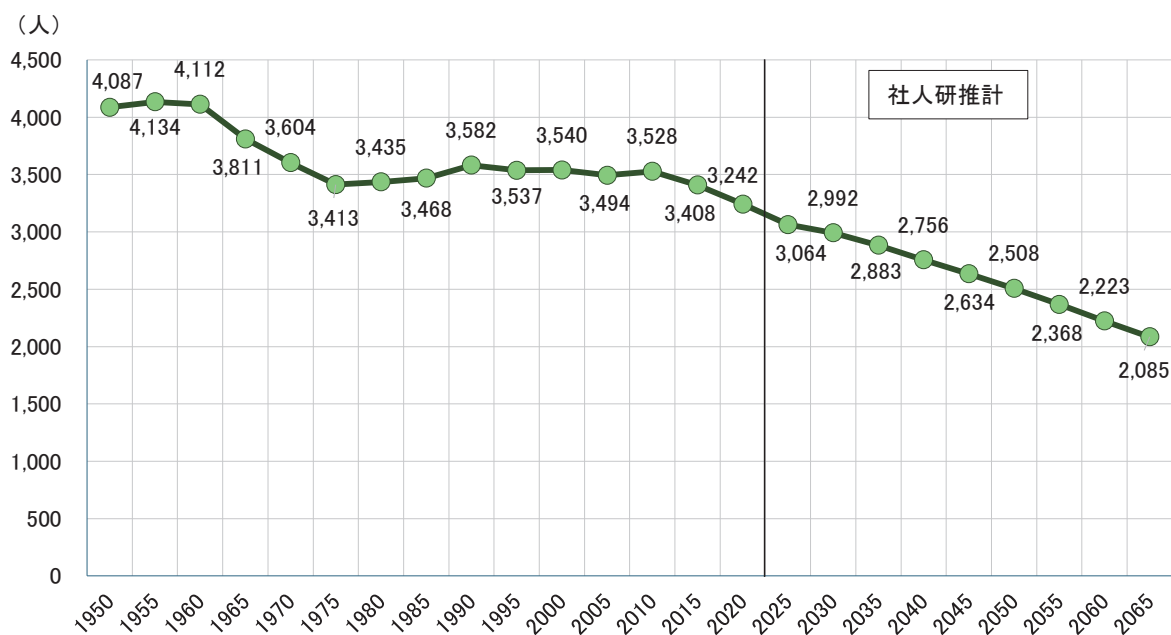
第2章 人口の現状分析

1 人口推移・人口構造

(1) 総人口の推移

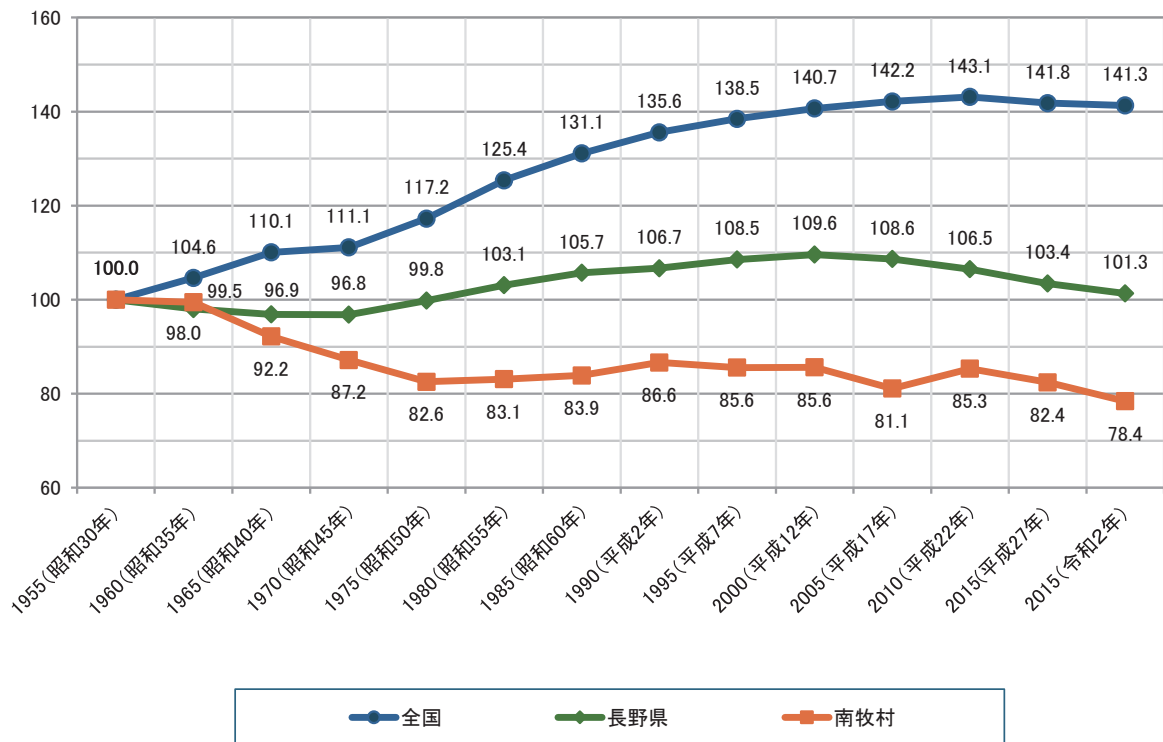
- 南牧村の総人口について1950（昭和25）年からの推移をみると、国勢調査では、1955（昭和30）年の4,134人をピークに減少し、その後1975（昭和50）年に増加に転じたものの、ほぼ横ばいに推移し、近年は減少傾向にあります。さらに、国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という）の2025年（令和7年）以降の推計では、今後、人口は年々減少が進んでいくことが見込まれています。
- 総人口のピークは、全国は2010（平成22）年、長野県は2000（平成12）年であるのに対して、本村では、国や長野県全体よりも40～50年程早く、人口減少が始まっています。本村のピークである1955（昭和30）年を100とした人口指数でみると、全国と長野県は2020（令和2）年にともに100を超えていますが、本村は78.4と、長野県を22.9ポイント下回る水準となっています。
- 世帯数は一貫して増加し続けており、2020（令和2）年には1,072世帯となっています。世帯の構成をみると、核家族世帯及び一人暮らし世帯の増加により、1世帯あたり人員は減少傾向にあります。国、県と比べると、核家族世帯、一人暮らしの割合が低く、三世帯世帯の割合が高くなっています。

【図表1】総人口の推移（南牧村）



出典：総務省「国勢調査」、2025年以降：国立社会保障・人口問題研究所将来推計人口
(令和6年6月配付ワークシート社人研推計準拠)

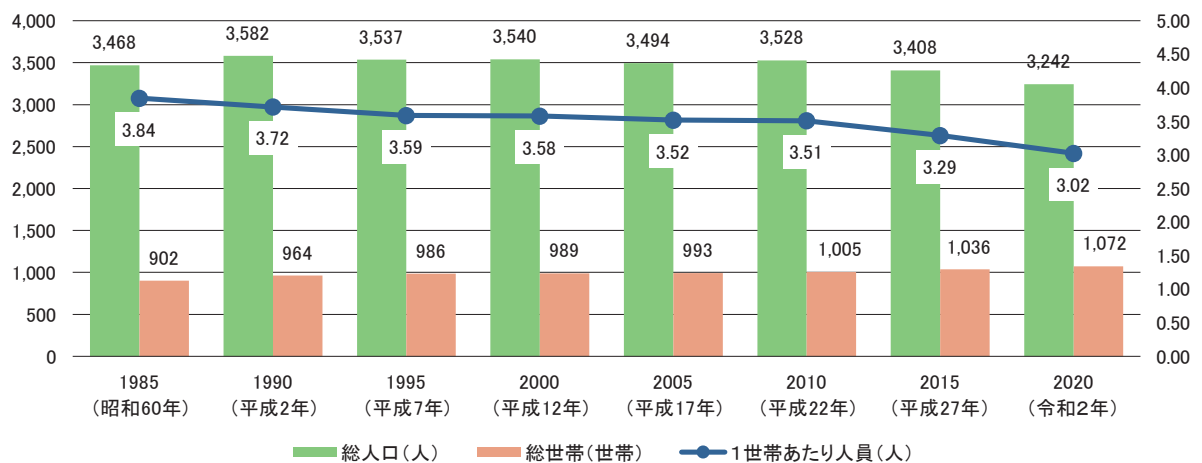
【図表2】総人口の推移（指数）



※1955年（昭和30年）＝100.0

出典：総務省「国勢調査」

【図表3】世帯数の推移（南牧村）



<参考：世帯構成別世帯数の推移>

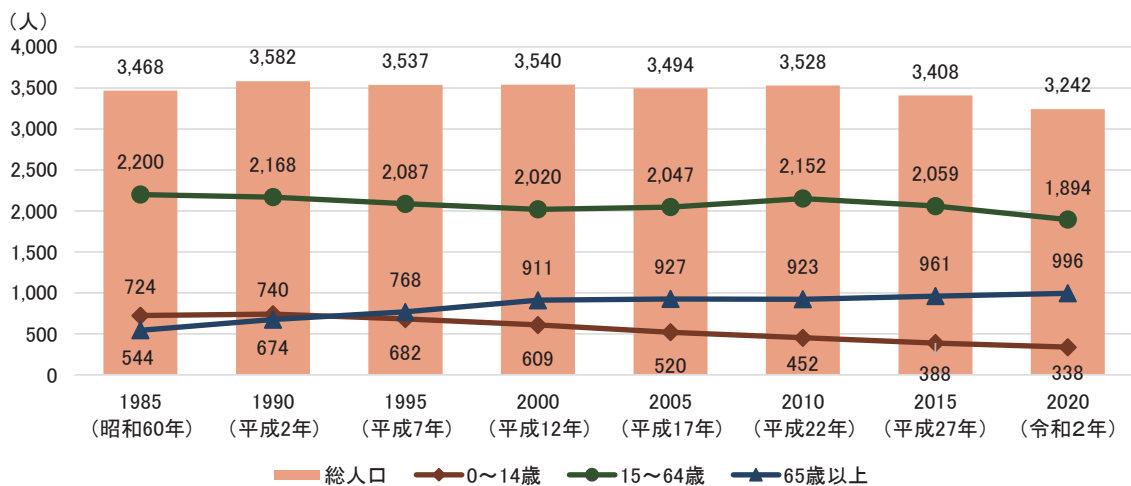
	平成27年		令和2年		長野県	全国
一般世帯数	1,033		1,072			
核家族	439	42.5%	502	46.8%	56.1%	54.1%
一人暮らし	258	25.0%	298	27.8%	31.0%	38.0%
うち高齢者単身	110	10.6%	122	11.4%	11.6%	12.1%
3世代世帯	163	15.8%	113	10.5%	7.6%	4.2%

出典：総務省「国勢調査」

(2) 年齢3区分別人口の推移

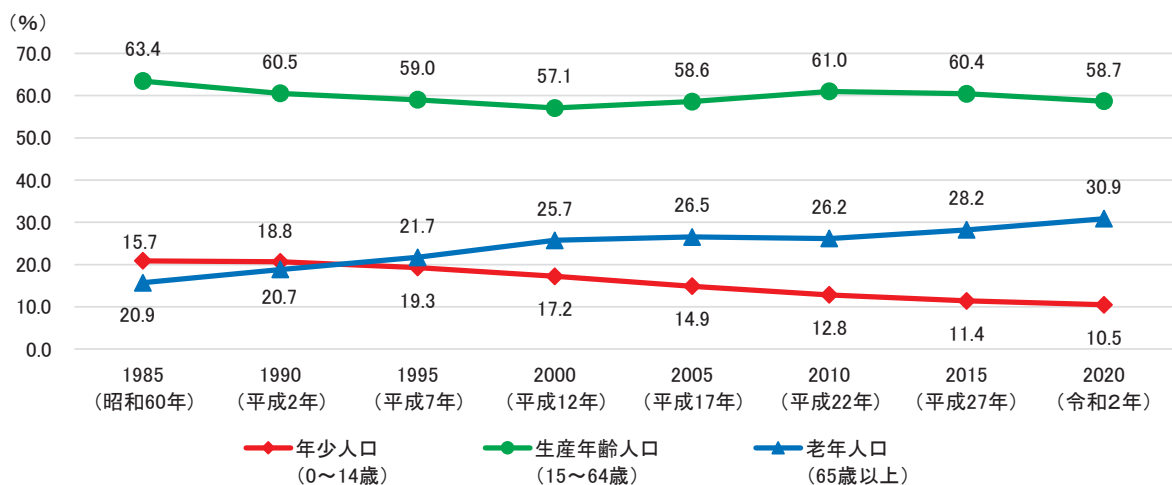
- 人口を、年少人口（15歳未満）、生産年齢人口（15歳～64歳）、老年人口（65歳以上）の3区分に分けて推移をみると、年少人口は一貫して緩やかに減少し、他方で総人口は緩やかな増加傾向にありましたが、2010（平成22）年代以降減少傾向となっています。1990年代に入って年少人口と老年人口が逆転しています。生産年齢人口も減少傾向にありましたが、2000（平成12）年代からやや増加したものの2010（平成22）年代以降減少傾向になっています。
- 年齢3区分別の人口構成割合をみると、2020（令和2）年の年少人口は10.5%、生産年齢人口は58.7%、老年人口は30.9%となっています。

【図表4】 年齢3区分別の人口の推移



出典：総務省「国勢調査」

【図表5】 年齢3区分人口の構成割合の推移



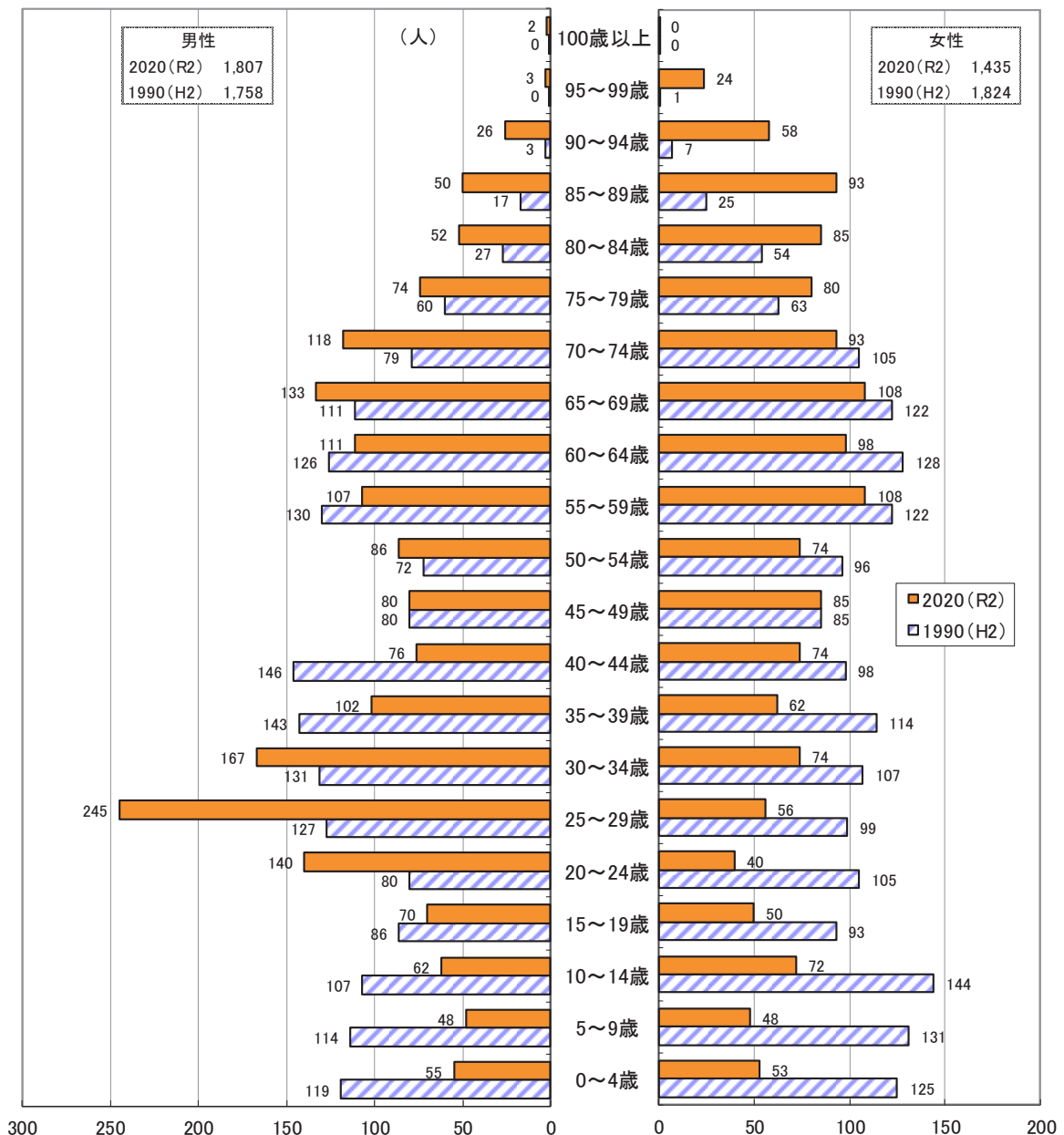
※割合は年齢不詳を除いて算出

出典：総務省「国勢調査」

(3) 人口構造の推移

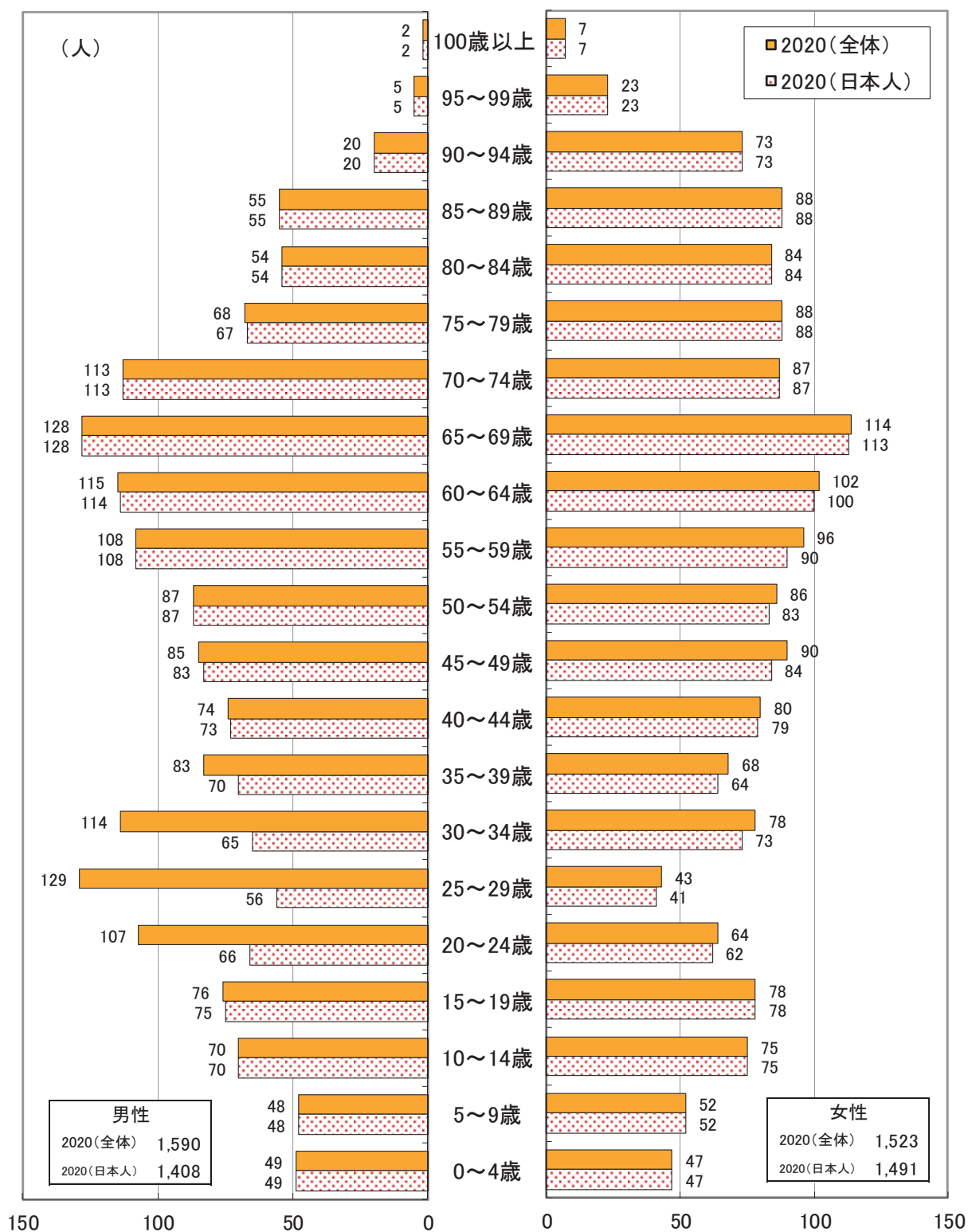
- 国勢調査における男女別・5歳階級別の人口構成の推移をみると、1990（平成2）年では、男女とも45～54歳の年齢層が少なくなっているものの、男女間、年齢層間での人口の差は比較的小さい状態でした。30年後の2020（令和2）年では、75歳以上の増加と20歳未満の減少が顕著となっています。
- 20～34歳では男性の増加がみられ、男女間で20～39歳まで人口差が大きくなっています。これは、2006（平成18）年以降、一定期間村内に滞在して農業に携わる外国人技能実習生を多く受け入れているためと考えられます。参考までに、2020（令和2）年の住民基本台帳人口による人口構造（次ページ）をみると、20～39歳までの男性には多くの外国人が含まれていることがわかります。

【図表6】5歳階級男女別人口構造（1990年・2020年）



出典：総務省「国勢調査」

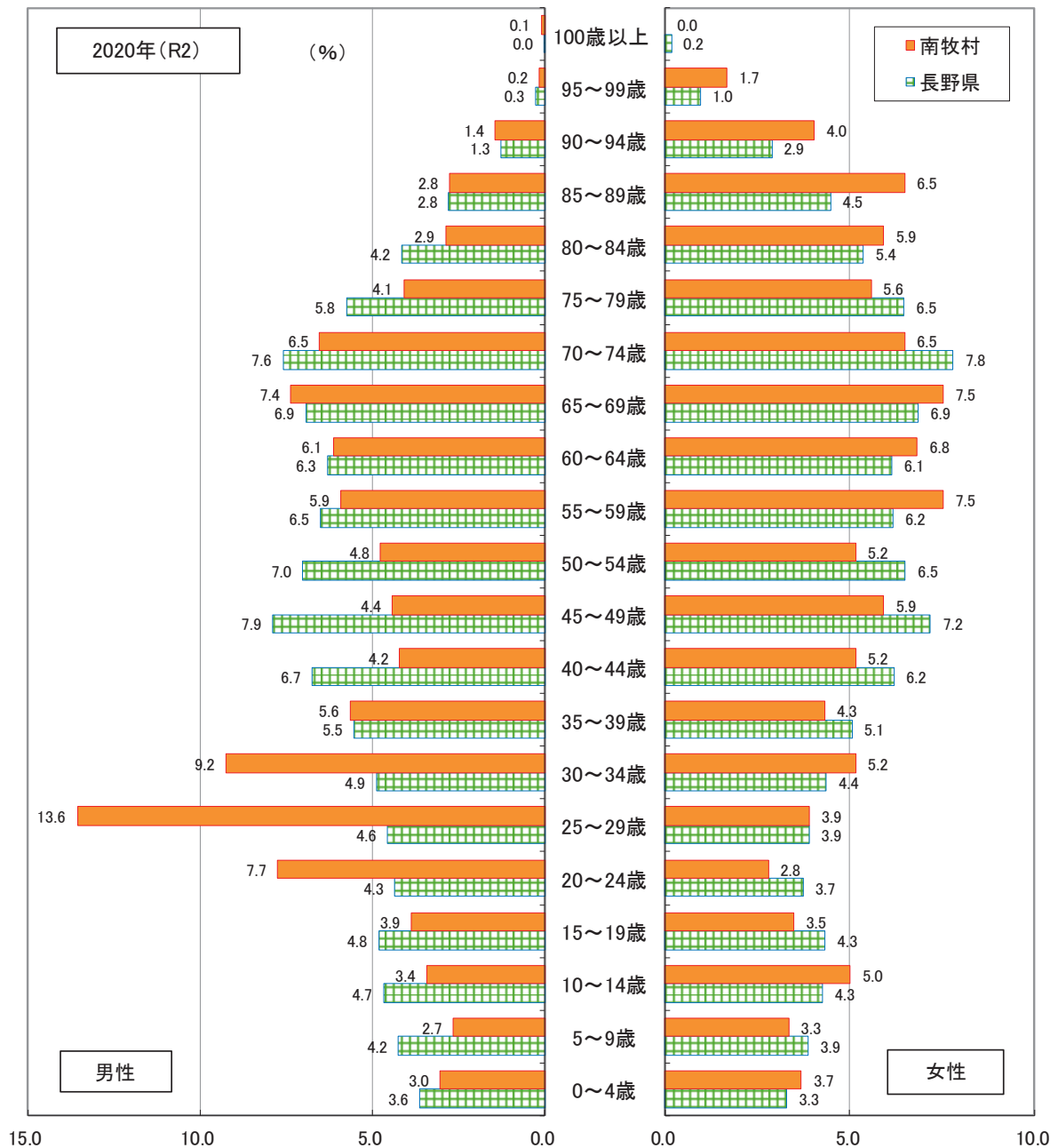
【図表7】 5歳階級男女別人口構造（2020年・村全体と日本人のみとの比較）



出典：南牧村「住民基本台帳人口」

- 国勢調査における2020（令和2）年の人口構造について長野県と比較すると、男性では70～84歳、40～64歳、19歳以下の割合が低く、女性では70～79歳、35～54歳、15～24歳、5～9歳の割合が低い状況となっています。

【図表8】5歳階級男女別人口構成比（2020年／長野県との比較）

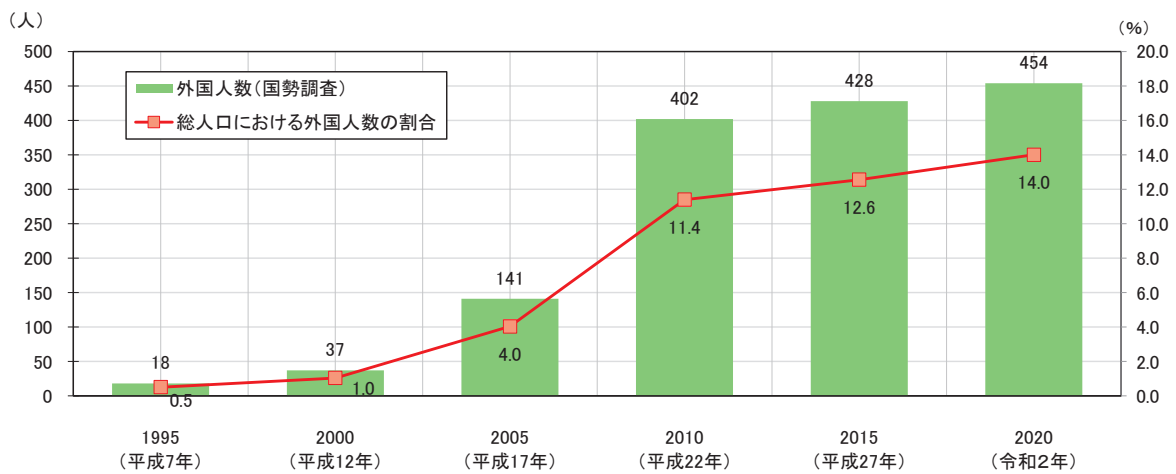


出典：総務省「国勢調査」

(4) 外国人人口の推移

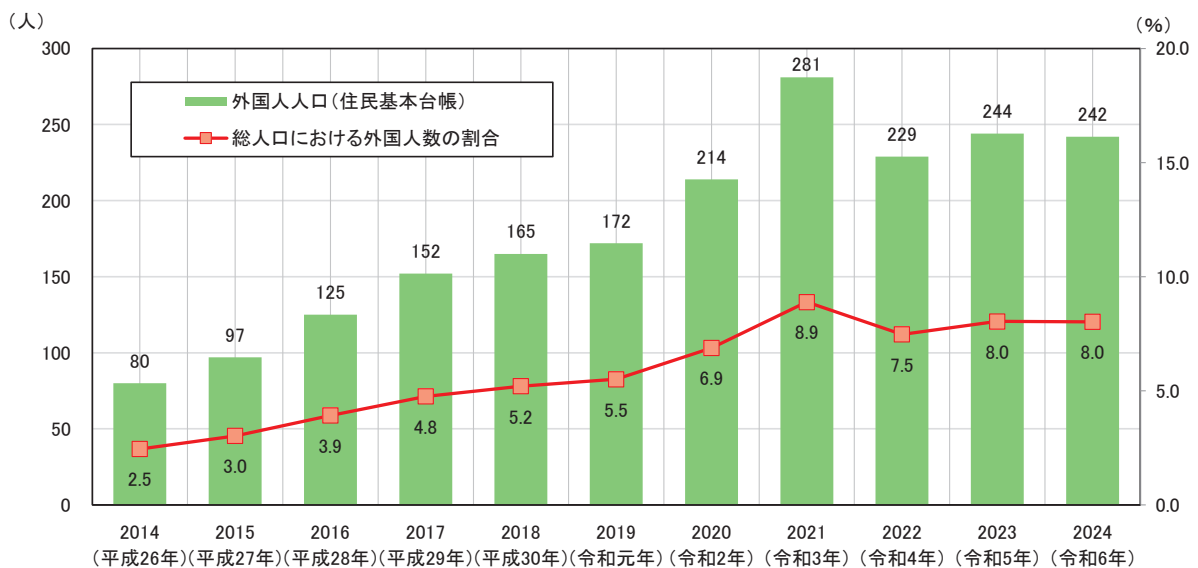
- 本村の外国人の人口について、国勢調査をみると、2020（令和2）年は454人（男性425人・女性29人）と、村の総人口の14.0%を占めており、1995（平成7）年の18人（0.5%）から25年間で大きく増加しています。
- 南牧村の住民基本台帳人口をみても、外国人人口は徐々に増加し、本村における2024（令和6）年の外国人住民は242人と、総人口の8.0%を占めており、総人口に占める外国人住民の割合は、県内市町村の中でも上位に位置しています。

【図表9】 外国人数の推移（国勢調査）



出典：総務省「国勢調査」

【図表10】 外国人人口の推移（住民基本台帳人口）



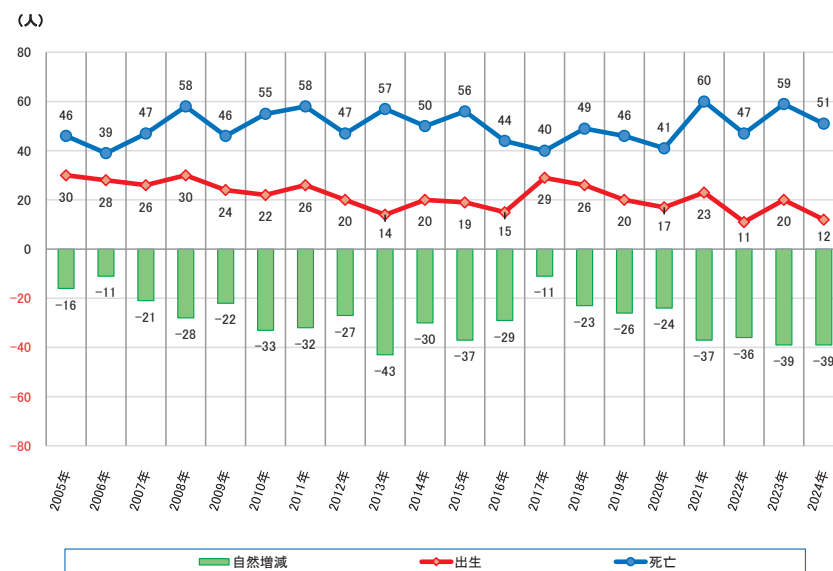
出典：南牧村「住民基本台帳人口」

2 人口動態

(1) 出生・死亡、転入・転出の推移

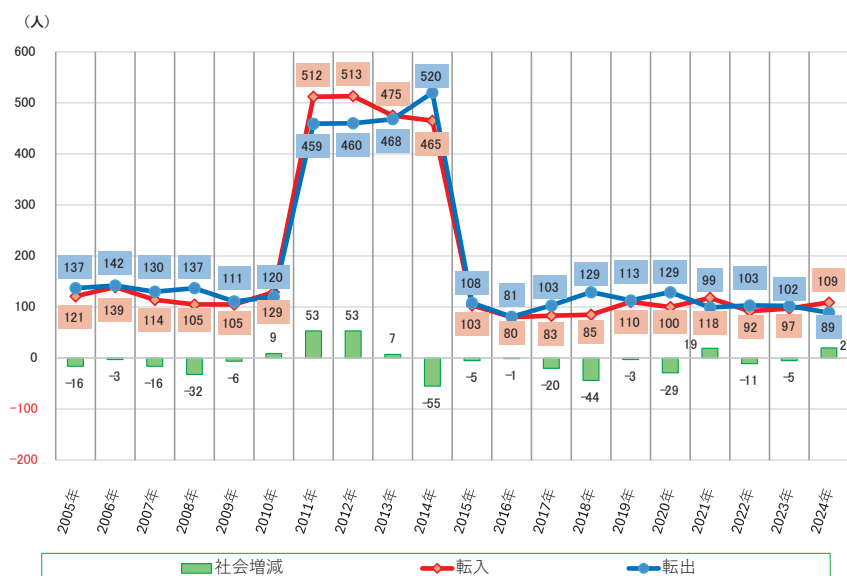
- 自然増減（出生・死亡）をみると、2005（平成17）年から2024（令和6）年まででは、死亡数が出生数を上回る自然減となっています。社会増減（転入・転出）をみると、2010（平成22）年から2013（平成25）年、2021（令和3）年、2024（令和6）年では、転入が転出を上回る社会増となっています。
- 自然増減と社会増減を合わせた人口動態の推移をみると、2011（平成23）年と2012（平成24）年を除き、減少となっています。

【図表11】 自然増減（出生・死亡）の推移（2005～2024年）



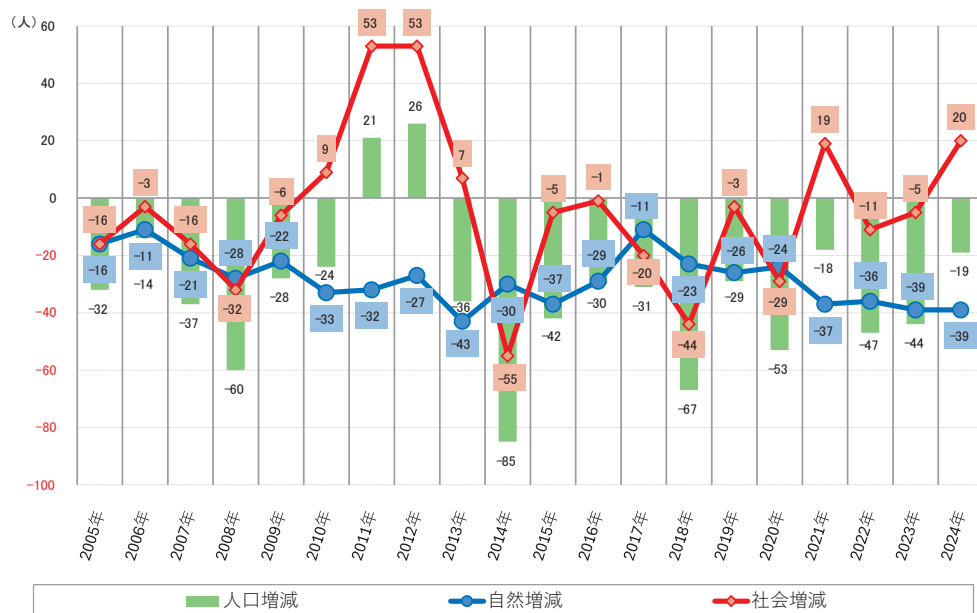
出典：南牧村「住民基本台帳」

【図表12】 社会増減（転入・転出）の推移（2005～2024年）



出典：南牧村「住民基本台帳」

【図表13】人口動態の推移（2005～2024年）



出典：南牧村「住民基本台帳」

- 昼・夜間人口を見ると、本村では、昼間人口が夜間人口を上回っており、小海町や佐久市、佐久穂町など他市町村から本村へ通勤している人が多いことがわかります。
- 本村からの通勤・通学先としては佐久市が最も多く、次いで山梨県北杜市、小海町と続いています。

<参考：昼・夜間人口の推移等>

■昼・夜間人口の推移

	平成22年	平成27年	令和2年
昼間人口	3,811	3,696	3,598
夜間人口	3,528	3,408	3,242
昼間人口比率（昼間人口／夜間人口）	108.0%	108.5%	111.0%

資料：国勢調査

■通勤・通学先別流出人口（令和2年）

流出人口	人数	割合
合計	353	100.0%
佐久市へ	88	24.9%
北杜市へ	79	22.4%
小海町へ	57	16.1%
川上村へ	48	13.6%
佐久穂町へ	17	4.8%
その他へ	64	18.1%

資料：国勢調査

■常住地別流入人口（令和2年）

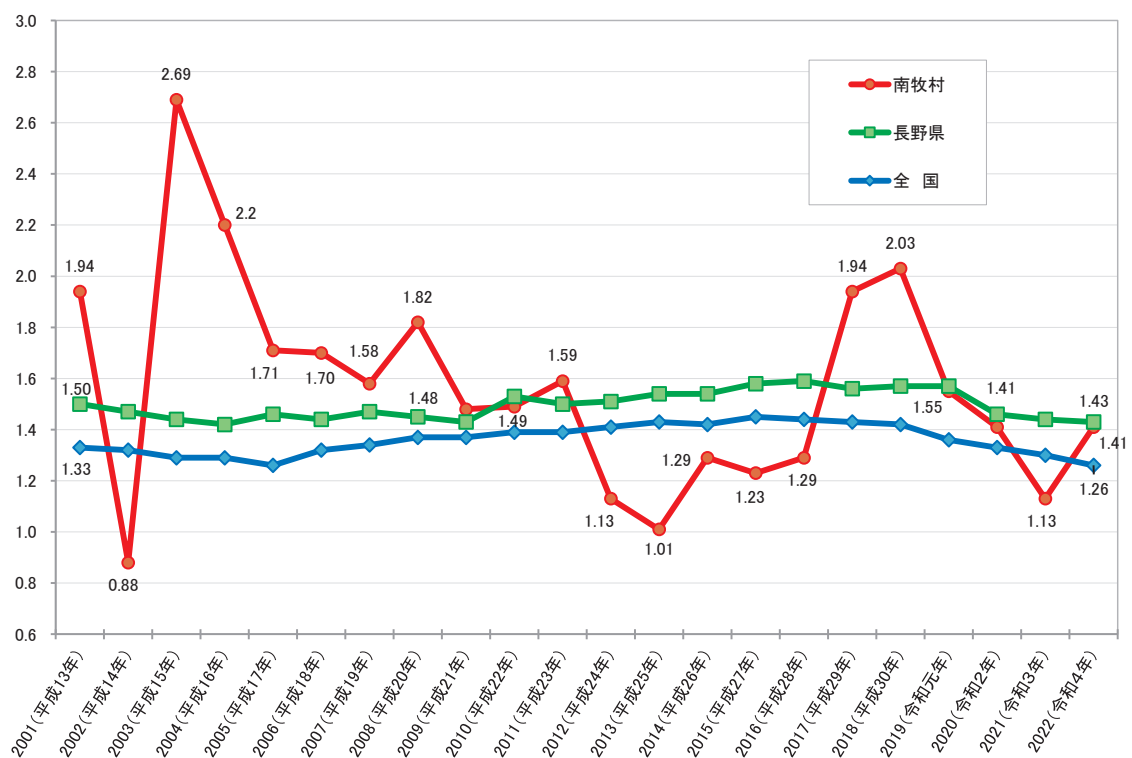
流出人口	人数	割合
合計	709	100.0%
小海町から	157	22.1%
佐久市から	120	16.9%
佐久穂町から	108	15.2%
川上村から	81	11.4%
北杜市から	100	14.1%
その他から	143	20.2%

資料：国勢調査

(2) 合計特殊出生率の推移

- 「合計特殊出生率」(TFR) は、女性が出産可能な年齢を15歳から49歳までと定め、それぞれの年齢の出生率を合計することで、一人の女性が一生に産む子どもの数を求めたものです。
- 2001(平成13)年からの合計特殊出生率の推移をみると、2011(平成23)年までは、年によって変動はあるものの、概ね長野県の平均や全国平均を上回る形で推移していましたが、2012(平成24)年からは5か年連続で長野県と全国の平均を下回る水準となりましたが、その後上昇に転じています。しかし、2020(令和2)年以降は長野県を下回り、2021(令和3)年には全国平均も下回るなど上下を繰り返しています。

【図表14】 合計特殊出生率 (TFR) の推移

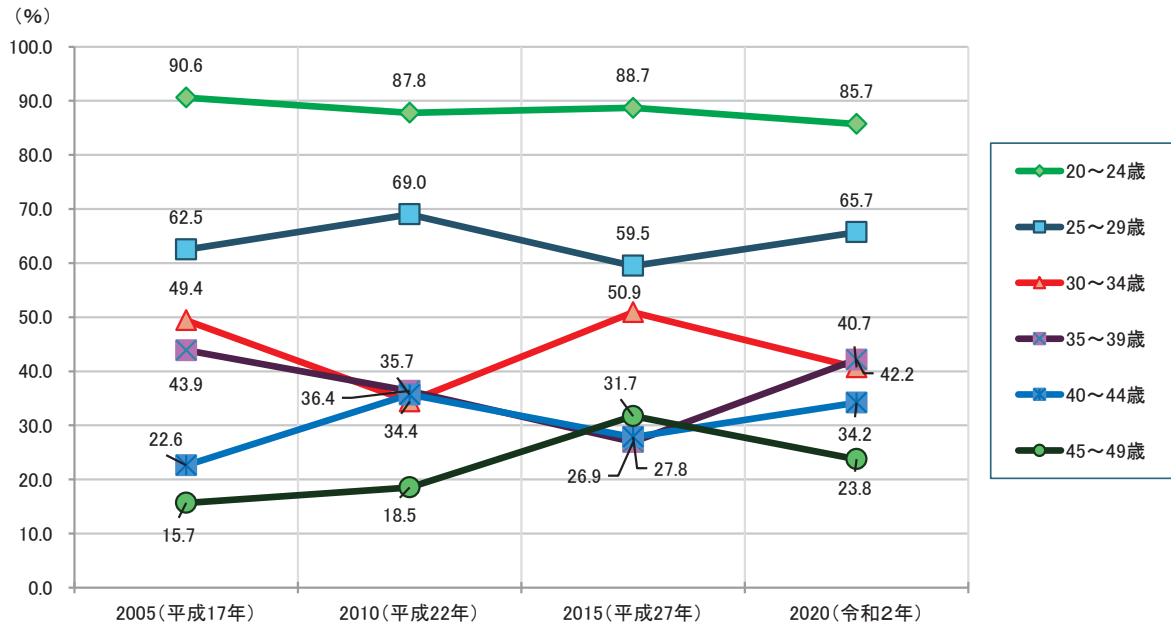


出典：「長野県衛生年報」、厚生労働省「人口動態調査」

(3) 未婚率の推移

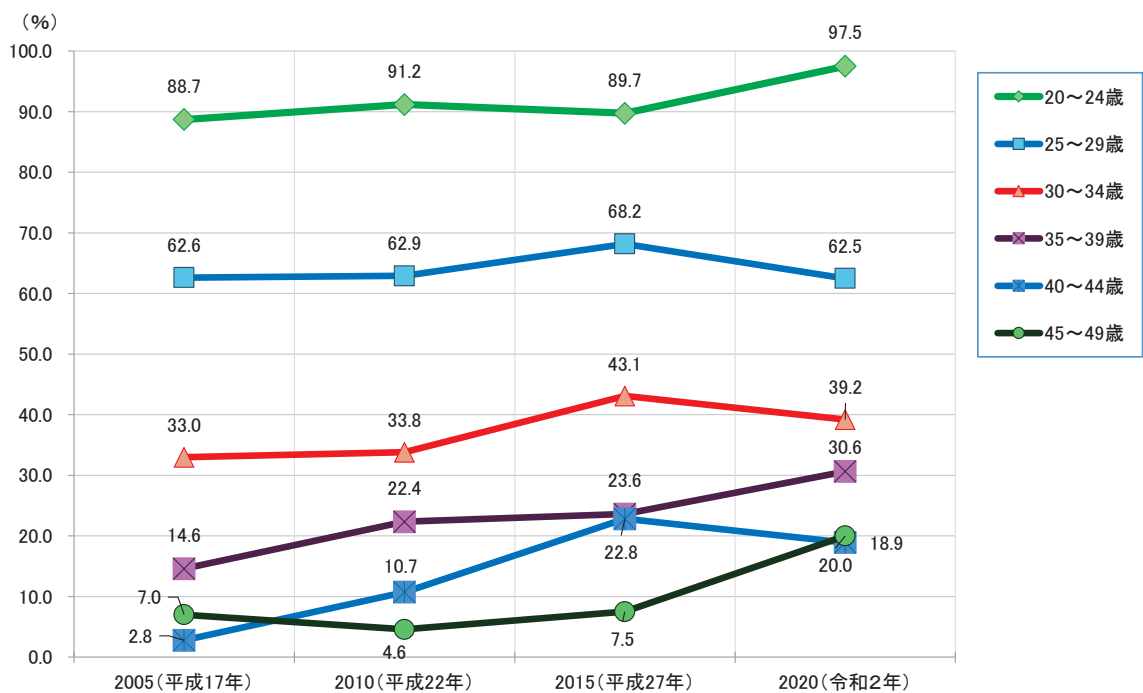
- 本村における2005（平成17）年から2020（令和2）年までの5歳階級別の未婚率（離婚した人は含まない）の推移を比較すると、男性では、20～24歳、30歳代で低下し、25～29歳、40歳代で上昇しています。
- 女性では、25～29歳を除いて上昇しており、特に40歳代では顕著となっています。

【図表15】 未婚率の推移（男性）



出典：総務省「国勢調査」

【図表16】 未婚率の推移（女性）

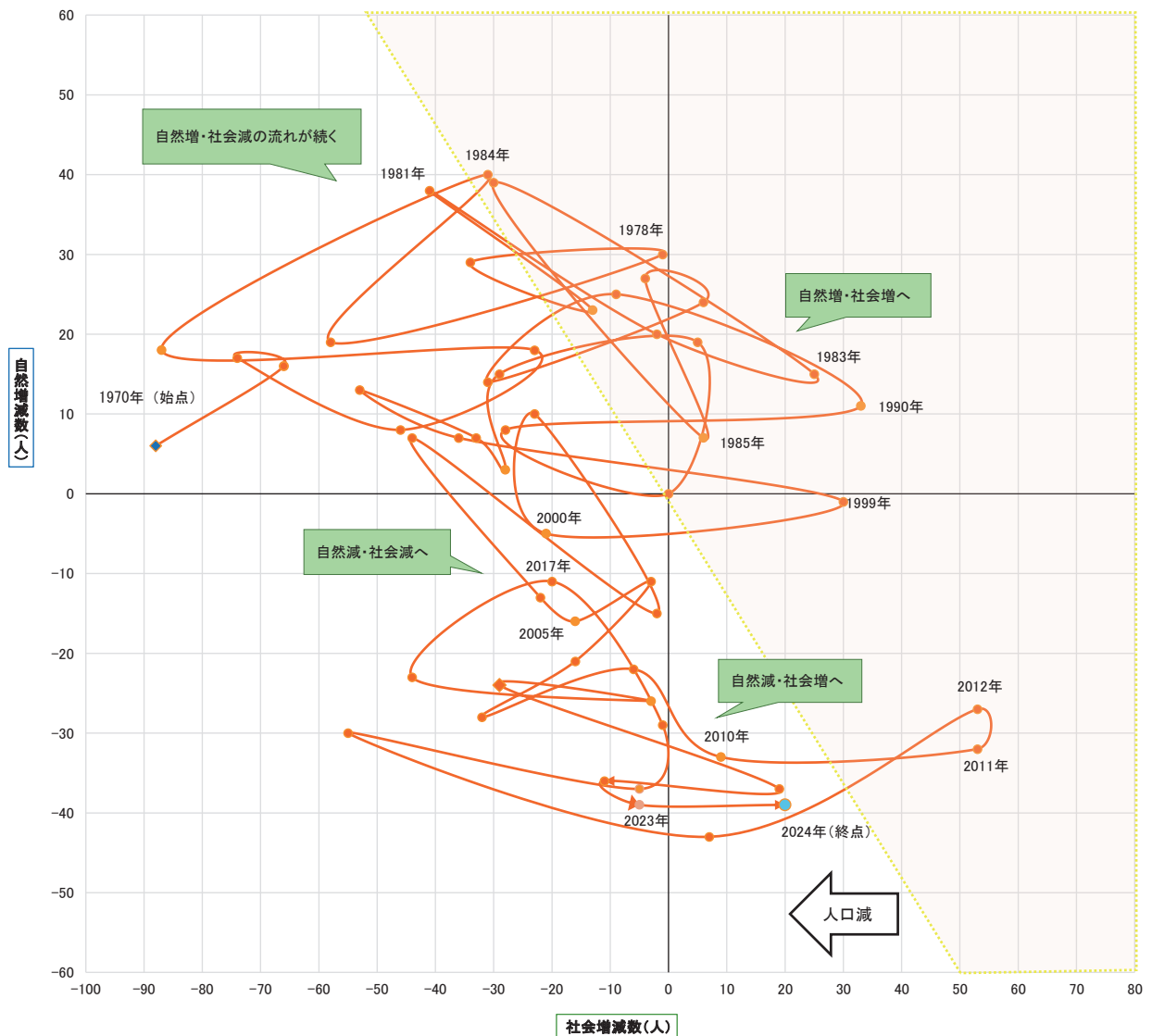


出典：総務省「国勢調査」

(4) 総人口に与えてきた自然増減と社会増減の影響

- 出生・死亡数の差（自然増減）と、転入・転出数の差（社会増減）を、次のような散布図で表すと、全体として社会増減による変化の影響が大きく、近年は自然減、社会減の双方の影響から人口減少の局面に入っていることが分かります。

【図表17】 自然増減と社会増減の影響（1970～2024年）



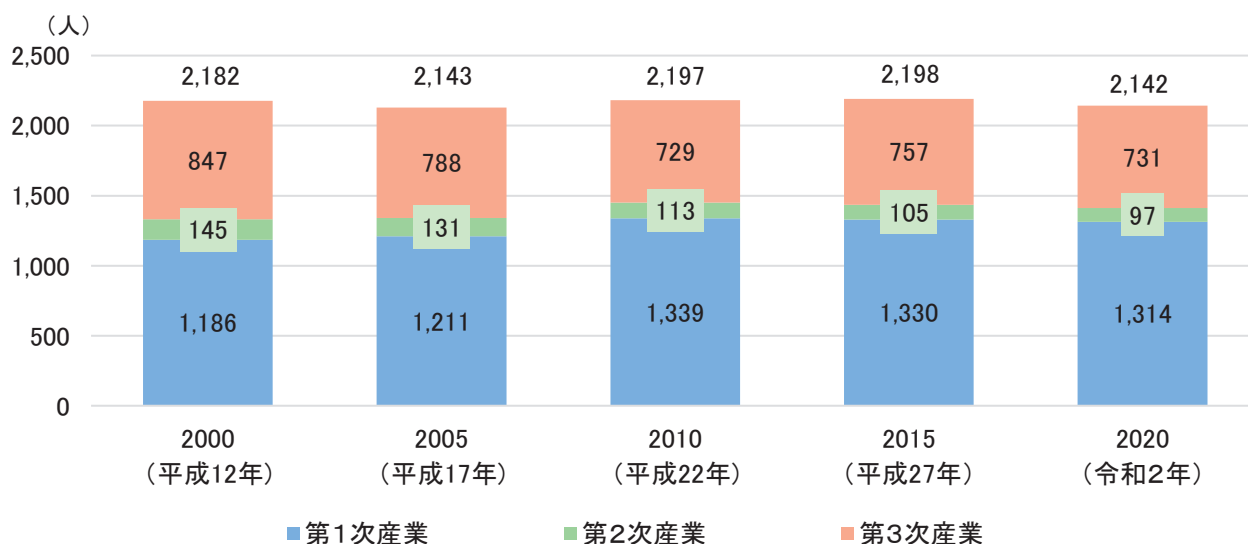
出典：南牧村「住民基本台帳」

3 就業人口

(1) 産業大分類別就業者数（15歳以上）の推移

- 15歳以上の就業者数の総数は、2000（平成12）年～2020（令和2）年の20年間で、2,100人台で推移しています。
- 本村の主力である農業を中心とした第1次産業の就業者数は20年間で128人の増加がみられる一方、第2次産業、第3次産業の就業者数は減少しており、特に最も少ない第2次産業の就業者が48人減少しています。

【図表18】 産業大分類別就業者数（15歳以上）



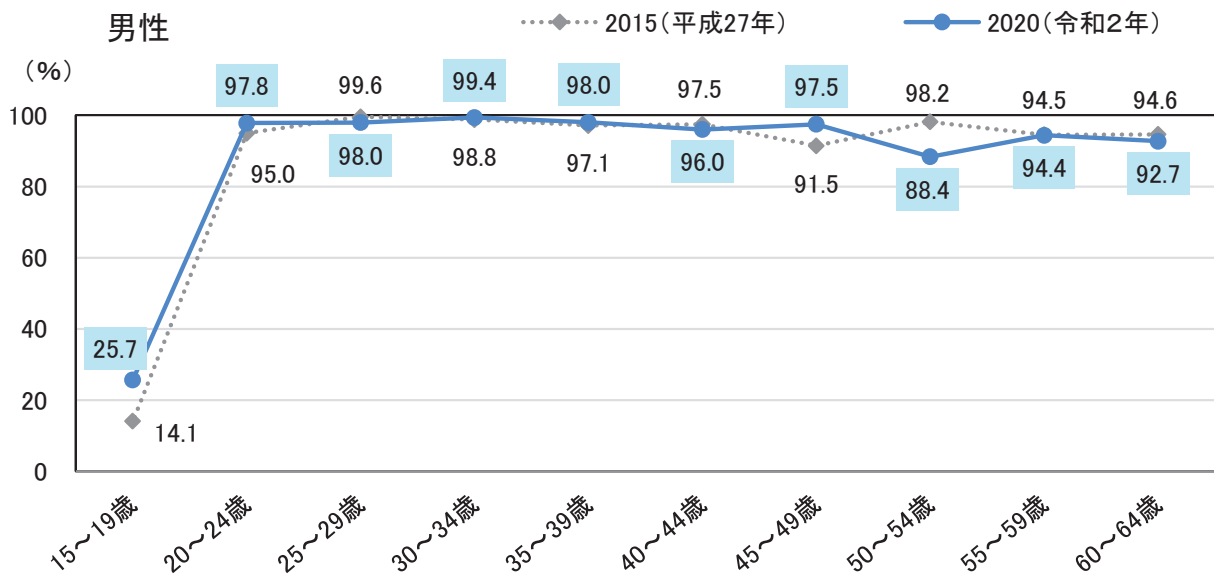
※就業者数の総数には分類不能を含む

出典：総務省「国勢調査」

(2) 就業率（15歳以上）の推移

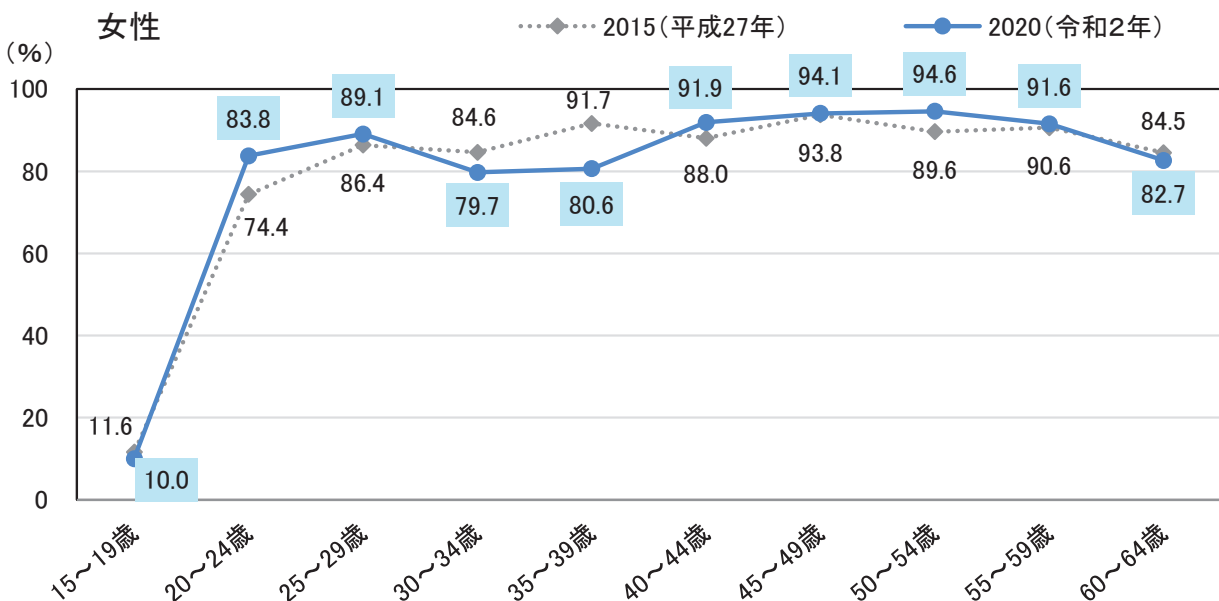
- 就業率の推移をみると、男性では、2015（平成27）年、2020（令和2）年ともに、20歳以上の大半の年齢層において90.0%前後と高い状態を維持しており、2020（令和2）年では15～24歳、30～39歳、45～49歳で増加がみられます。
- 女性の就業率は、2015（平成27）年、2020（令和2）年ともに、20歳以上の大半の年齢層において80.0%前後と高い状態を維持しており、2020（令和2）年では20～29歳、40～59歳で増加がみられます。

【図表19】 男女5歳階級別就業率（男性）



出典：総務省「国勢調査」

【図表20】 男女5歳階級別就業率（女性）



出典：総務省「国勢調査」

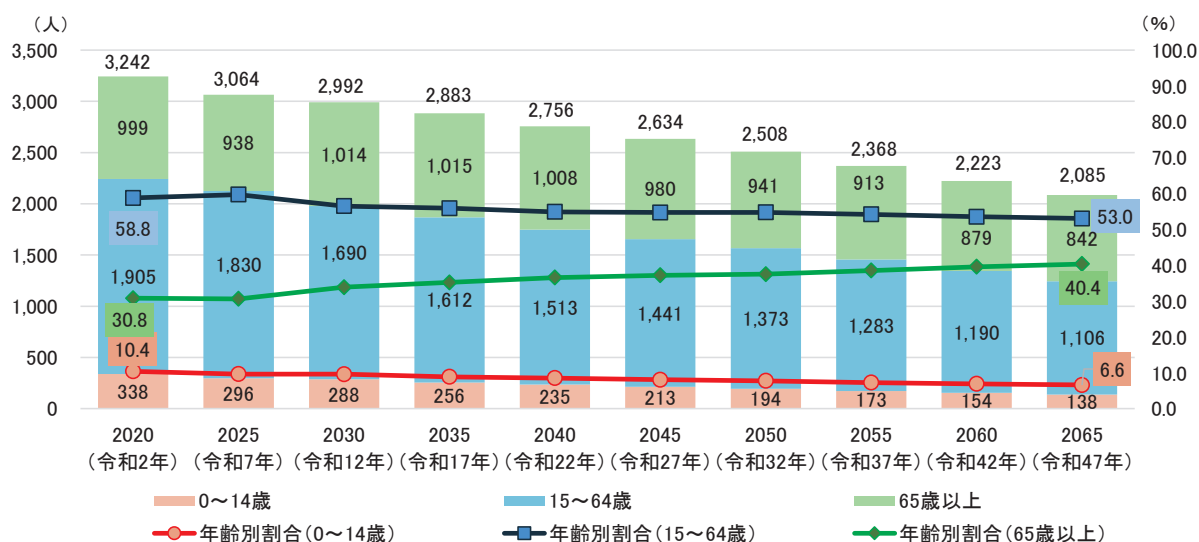
第3章 人口推計と将来展望

1 将来人口推計

(1) 総人口・年齢別人口の推計

- 「社人研」の推定値を用い、南牧村の将来人口を推計すると、2045（令和27）年には人口は2,600人台となり、2055（令和37）年には2,300人台となり、人口減少は進行していくことがわかります。年少人口（0～14歳）、生産年齢人口（15～64歳）がいずれも減少していく中で、老年人口（65歳以上）は2035（令和17）年まで増加を続け、その後減少すると見込まれています。2065（令和47）年には、年少人口割合が6.6%、生産年齢人口割合が53.0%、老年人口割合が40.4%になると見込まれています。
- 推計方法は、コーホート要因法を基礎としています。コーホート要因法は、基本的な属性である男女・年齢別のある年の人口を基準として、出生・死亡・移動に関する将来の仮定値を当てはめて将来人口を推計する方法です。

【図表21】 社人研による本村の人口推計

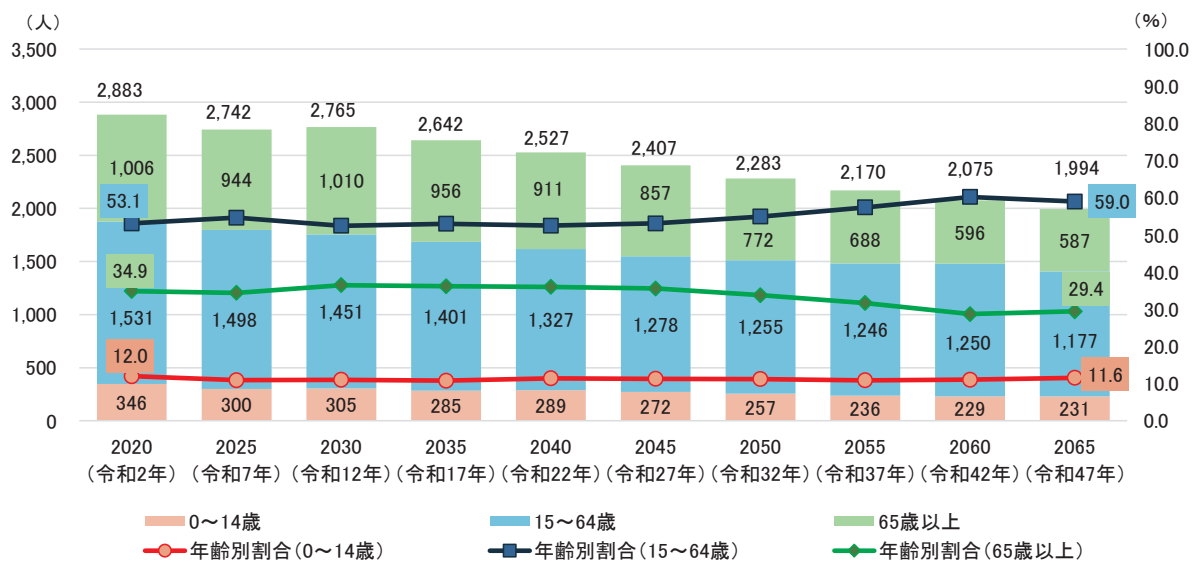


出典：国立社会保障・人口問題研究所 提供資料

(2) 本村独自の将来人口推計

- 前記の社人研の推定値は国勢調査を基にしているため、実際には定住していない外国人技能実習生等を多く含む人口推計であることから、2015（平成27）年に南牧村人口ビジョンを最初に策定した際に採用した手法を踏襲し、住民基本台帳から外国人農業実習生を除いた定住人口を抽出し、これを基に本村独自の将来人口推計を行いました。
- 本推計では、南牧村第1期からの総合戦略の成果が表れてきているとの認識から、現行の推計の考え方を維持し、合計特殊出生率については、2025（令和7）年は本村における過去5年間の平均値である1.51、その後は徐々に上昇し、2030（令和12）年に1.84（現行戦略を踏襲した希望出生率）を実現して、これが安定的に継続するものと仮定しています。人口移動は、社人研準拠の純移動率が2030（令和12）年まで続くものの、その後は均衡して社会増減がゼロになると仮定しています。これによると、年齢3区分別構成割合は、2065（令和47）年まで年少人口11%台前後を維持しながら推移し、老年人口も30%未満にとどまる見込みとなっています。

【図表22】 本村独自の人口推計



2 人口の将来展望にかかる村民意識等

(1) 地方創生に関するアンケート調査の概要

本村では、人口減少社会への対応と地方創生に向け、平成27（2015）年度に将来人口の展望「南牧村人口ビジョン」と5年間の対策計画「南牧村総合戦略」を策定し、現在は第2期計画のもとで取組みを推進しています。

本調査は、「南牧村総合戦略」が令和6（2024）年度で第2期の計画期間を終了するのに伴い、これまでの取組みの評価と次期の戦略立案にあたっての基礎資料とするために実施しました。

- 調査地域：村内全域
- 調査対象者：
 - 村内在住の19歳以上50歳未満の住民全員を対象（以下「住民アンケート」という。）
 - 村内の企業・事業所を対象（以下「企業アンケート」という。）
- 調査期間：
 - 住民アンケート：令和6年8月27日（火）～令和6年9月17日（火）
 - 企業アンケート：令和6年8月27日（火）～令和6年9月17日（火）
- 調査方法：
 - 郵送による配布・回収
- 回収状況：

種別	配布数	有効回収数	有効回収率
住民アンケート	761票	197票	25.9%
企業アンケート	40票	16票	40.0%

- 報告書の見方：
 - ・ n は、質問に対する無回答を含む集計対象総数で割合算出の基準です。
 - ・ 割合は、n に対する各回答数の百分率で表しています。なお、小数点以下第2位を四捨五入して、小数点以下第1位までを表記しているため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）の設問では、合計が99.9%や100.1%など、100.0%とならない場合があります。
 - ・ 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。一人の回答者が複数〇を付けられるため、合計が100.0%を超える場合があります。
 - ・ 令和元年（2019）に実施した住民アンケート調査（以下「前回」という。）と同じ設問は、前回の結果との比較をしています。
 - ・ クロス集計表の表側（分類層）は、無回答（不明）を除いているため、各層の実数と集計対象総数が一致しないことがあります。
 - ・ 掲載しているグラフは、単数回答の設問については、帯グラフで表示しています。一部の設問では、見やすさを考慮して、棒グラフで表示している場合があります。また、複数回答の設問については、棒グラフで表示して、選択肢項目を回答数の多い順に並び替えています。ただし、順番に意味がある場合や「特にない」「その他」については、選択肢順に表示しています。
 - ・ 本文中の設問の選択肢について、長い文は簡略化している場合があります。

(2) 住民アンケートの調査結果

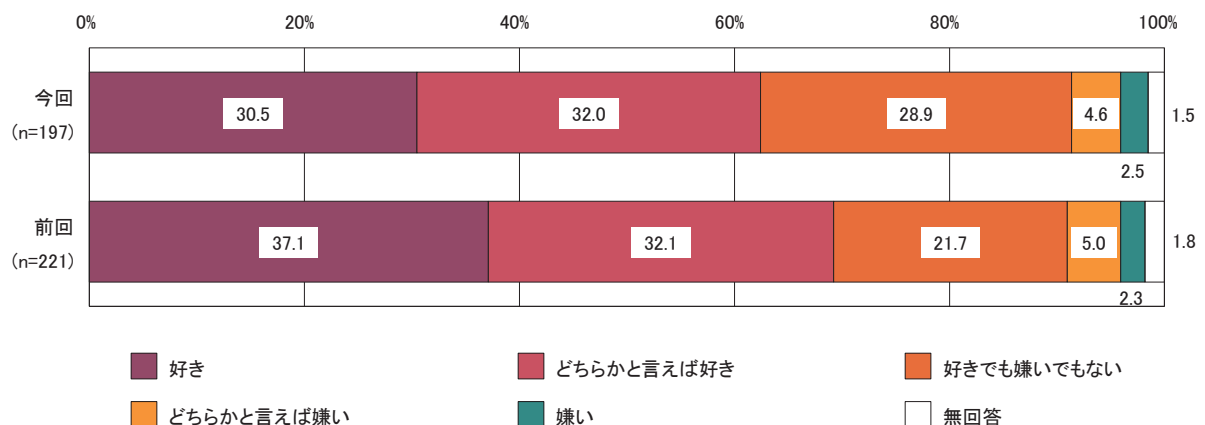
住民アンケート調査について、主な設問の結果を以下に抜粋して掲載します。

内容の詳細については、「南牧村地方創生に関するアンケート調査結果報告書（令和7年3月）」をご参照ください。

① 南牧村に対して

「あなたは、南牧村が好きですか。（単数回答）」

- 本村の好感度は、「どちらかと言えば好き」が32.0%と最も多く、次いで「好き」が30.5%、「好きでも嫌いでもない」が28.9%、「どちらかと言えば嫌い」が4.6%、「嫌い」が2.5%となっています。
- 前回と比べると、『好き』（「好き」と「どちらかと言えば好き」を足した割合）は6.7ポイント減少しています。（今回：62.5%、前回：69.2%）
- 年齢×性別でみると、25～40歳の男性の各層で『嫌い』（「嫌い」と「どちらかと言えば嫌い」を足した割合）が他の層と比べて高くなっています。

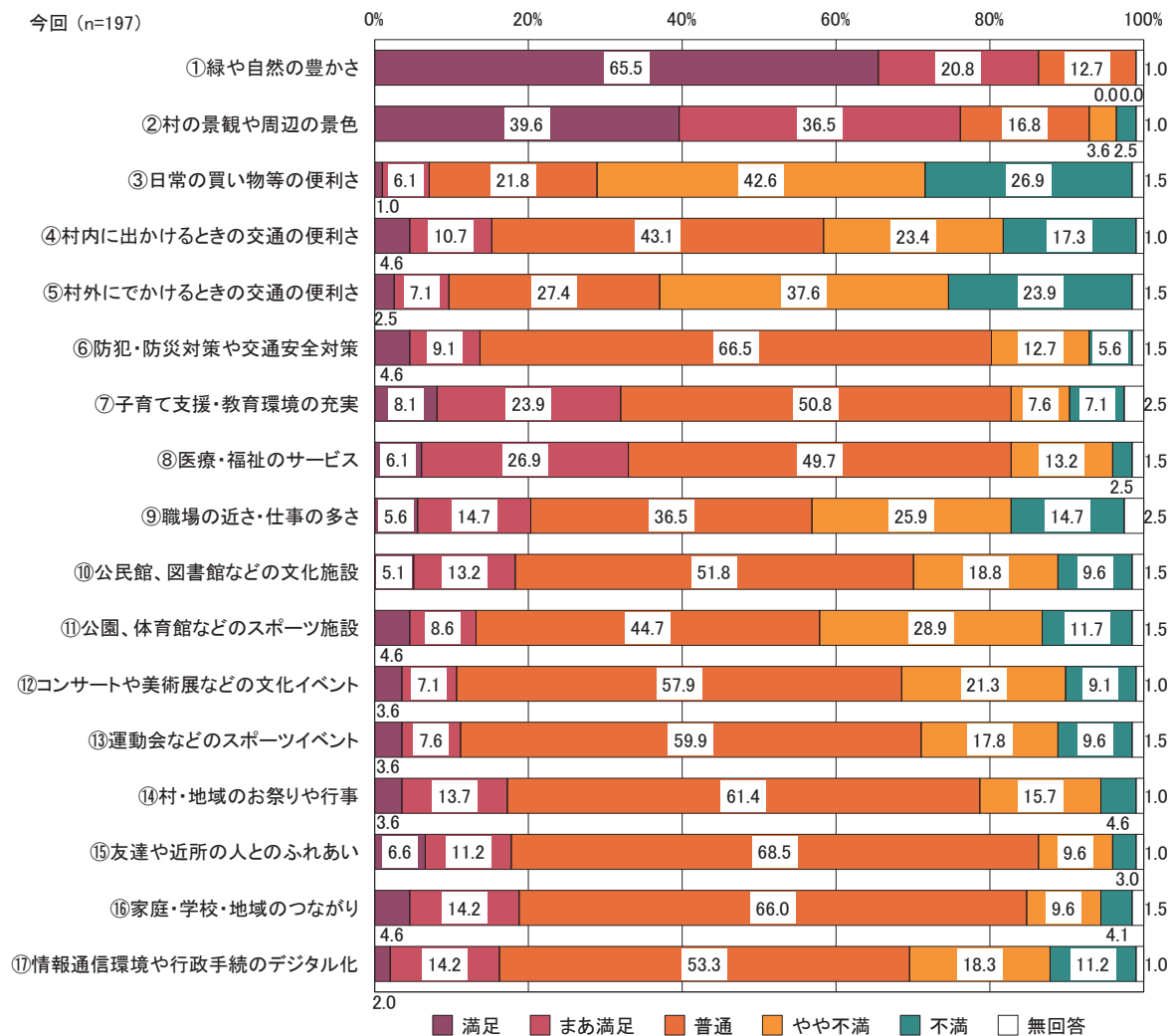


		n 数	好き	どちらかと言え ば好き	好きでも 嫌いでもない	どちらかと言え ば嫌い	嫌い	無回答	『好き』	『嫌い』
全体		197	30.5%	32.0%	28.9%	4.6%	2.5%	1.5%	62.5%	7.1%
年齢×性別	19歳 _ 男性	3	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	66.7%	0.0%
	19歳 _ 女性	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
	20～24歳 _ 男性	11	18.2%	36.4%	36.4%	0.0%	0.0%	9.1%	54.6%	0.0%
	20～24歳 _ 女性	18	44.4%	22.2%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	66.6%	0.0%
	25～29歳 _ 男性	14	21.4%	28.6%	28.6%	14.3%	0.0%	7.1%	50.0%	14.3%
	25～29歳 _ 女性	12	41.7%	8.3%	41.7%	8.3%	0.0%	0.0%	50.0%	8.3%
	30～34歳 _ 男性	7	42.9%	42.9%	0.0%	0.0%	14.3%	0.0%	85.8%	14.3%
	30～34歳 _ 女性	11	27.3%	45.5%	27.3%	0.0%	0.0%	0.0%	72.8%	0.0%
	35～40歳 _ 男性	22	36.4%	27.3%	18.2%	13.6%	4.5%	0.0%	63.7%	18.1%
	35～40歳 _ 女性	20	30.0%	25.0%	40.0%	5.0%	0.0%	0.0%	55.0%	5.0%
	40歳以上 _ 男性	36	33.3%	30.6%	25.0%	2.8%	5.6%	2.8%	63.9%	8.4%
	40歳以上 _ 女性	40	25.0%	40.0%	30.0%	2.5%	2.5%	0.0%	65.0%	5.0%

※網掛け：各分類層での第1位回答

「南牧村の環境について、どの程度満足していますか。(単数回答)」

- 本村の環境について、評価点が高い項目は、「①緑や自然の豊かさ」(4.53)、「②村の景観や周辺の景色」(4.08)、「⑧医療・福祉のサービス」(3.21)、「⑦子育て支援・教育環境の充実」(3.19)、「⑮友達や近所の人とのふれあい」(3.09)となっています。
- 評価点が高い項目は、「③日常の買い物等の便利さ」(2.10)、「⑤村外にでかけるときの交通の便利さ」(2.26)、「④村内に出かけるときの交通の便利さ」(2.62)、「⑪公園、体育館などのスポーツ施設」(2.65)、「⑨職場の近さ・仕事の多さ」(2.70)となっています。
- 前回と比べると、評価点0.1ポイント以上の変化があった項目として、「⑯家庭・学校・地域のつながり」(0.2減少)、「⑮友達や近所の人とのふれあい」(0.16減少)、「④村内に出かけるときの交通の便利さ」(0.12増加)が挙げられます。



	n数	満足	まあ満足	普通	やや不満	不満	無回答	評価点	
								今回	前回
①緑や自然の豊かさ	197	65.5%	20.8%	12.7%	0.0%	0.0%	1.0%	4.53	4.56
②村の景観や周辺の景色	197	39.6%	36.5%	16.8%	3.6%	2.5%	1.0%	4.08	4.15
③日常の買い物等の便利さ	197	1.0%	6.1%	21.8%	42.6%	26.9%	1.5%	2.10	2.05
④村内に出かけるときの交通の便利さ	197	4.6%	10.7%	43.1%	23.4%	17.3%	1.0%	2.62	2.50
⑤村外にでかけるときの交通の便利さ	197	2.5%	7.1%	27.4%	37.6%	23.9%	1.5%	2.26	2.27
⑥防犯・防災対策や交通安全対策	197	4.6%	9.1%	66.5%	12.7%	5.6%	1.5%	2.94	2.85
⑦子育て支援・教育環境の充実	197	8.1%	23.9%	50.8%	7.6%	7.1%	2.5%	3.19	3.12
⑧医療・福祉のサービス	197	6.1%	26.9%	49.7%	13.2%	2.5%	1.5%	3.21	3.19
⑨職場の近さ・仕事の多さ	197	5.6%	14.7%	36.5%	25.9%	14.7%	2.5%	2.70	2.68
⑩公民館、図書館などの文化施設	197	5.1%	13.2%	51.8%	18.8%	9.6%	1.5%	2.85	2.85
⑪公園、体育館などのスポーツ施設	197	4.6%	8.6%	44.7%	28.9%	11.7%	1.5%	2.65	2.70
⑫コンサートや美術展などの文化イベント	197	3.6%	7.1%	57.9%	21.3%	9.1%	1.0%	2.74	2.66
⑬運動会などのスポーツイベント	197	3.6%	7.6%	59.9%	17.8%	9.6%	1.5%	2.77	2.83
⑭村・地域のお祭りや行事	197	3.6%	13.7%	61.4%	15.7%	4.6%	1.0%	2.96	2.94
⑮友達や近所の人とのふれあい	197	6.6%	11.2%	68.5%	9.6%	3.0%	1.0%	3.09	3.25
⑯家庭・学校・地域のつながり	197	4.6%	14.2%	66.0%	9.6%	4.1%	1.5%	3.06	3.26
⑰情報通信環境や行政手続のデジタル化	197	2.0%	14.2%	53.3%	18.3%	11.2%	1.0%	2.77	-

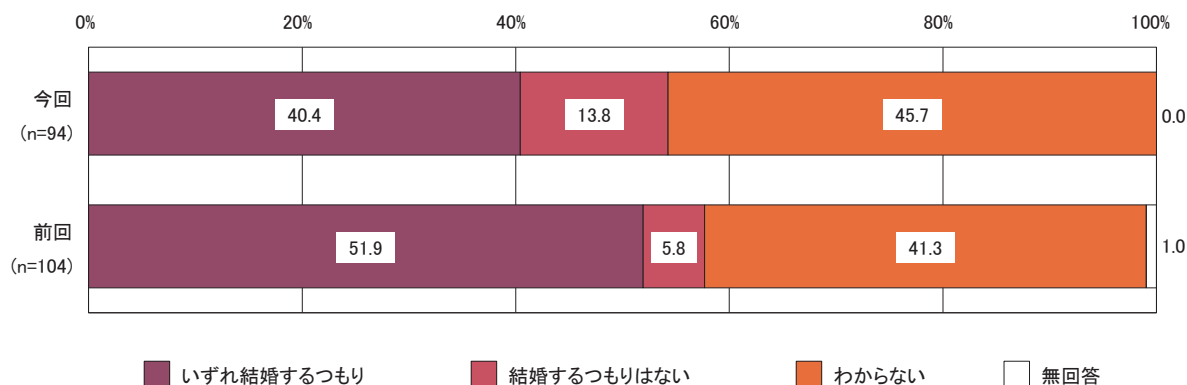
※評価点は、各項目において、満足：5点、まあ満足：4点、普通：3点、やや不満：2点、不満：1点として加算し、n数の合計（無回答を除く）で除して算出しています。

※項目⑰は今回のみ

② 結婚に関する意向

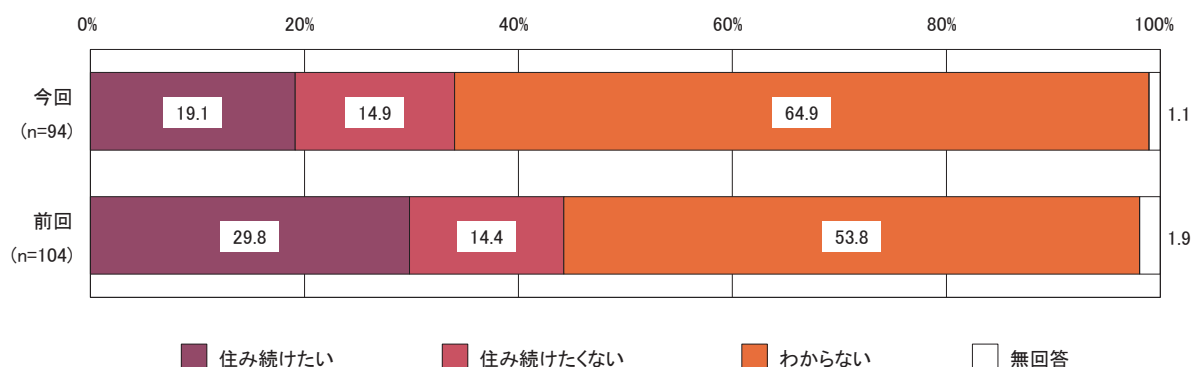
「今後の結婚に関するあなたの希望は次のうち、どれにあてはまりますか。(単数回答)」

- 現在、独身の方の結婚希望は、「わからない」が45.7%と最も多く、次いで「いずれ結婚するつもり」が40.4%、「結婚するつもりはない」が13.8%となっています。
- 前回と比べると、「いずれ結婚するつもり」(今回：40.4%、前回：51.9%)の割合が減少しています。



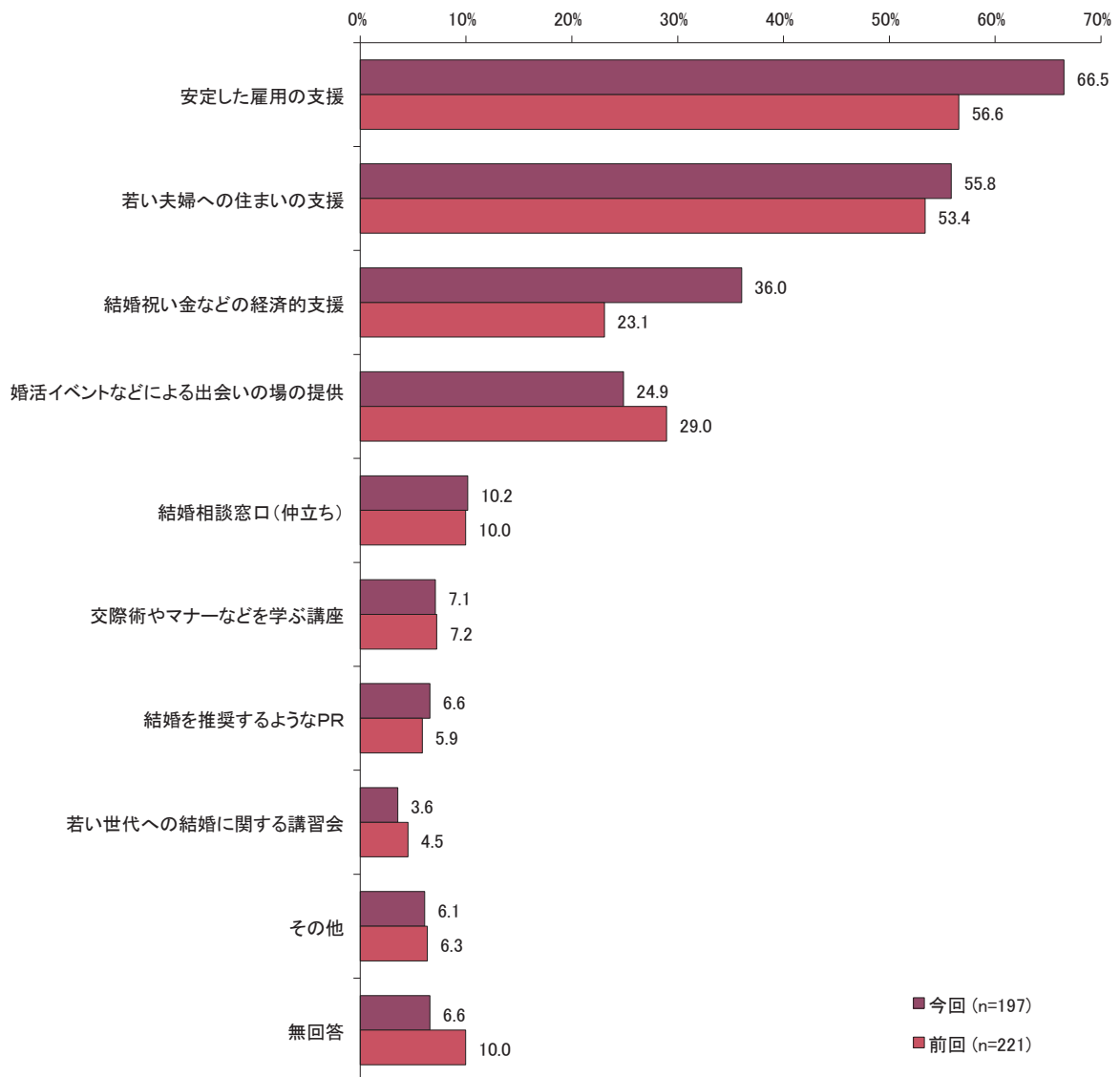
「結婚後も南牧村に住み続けたいと思いますか。(1つに○)」

- 結婚後の本村への定住意向は、「わからない」が64.9%と最も多く、次いで「住み続けたい」が19.1%、「住み続けたくない」が14.9%となっています。
- 前回と比べると、「住み続けたい」(今回：19.1%、前回：29.8%)の割合が減少しています。



「南牧村が重点的に取り組むべき結婚支援の事業は何だと思いますか。(複数回答)」

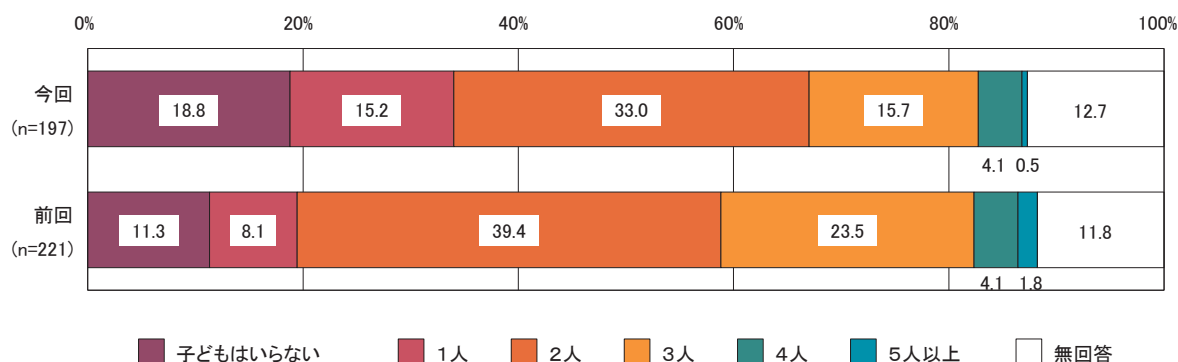
- 本村が重点的に取り組むべき結婚支援の事業は、「安定した雇用の支援」が66.5%と最も多く、次いで「若い夫婦への住まいの支援」が55.8%、「結婚祝い金などの経済的支援」が36.0%、「婚活イベントなどによる出会いの場の提供」が24.9%と続いています。
- 前回と比べると、「結婚祝い金などの経済的支援」(今回：36.0%、前回：23.1%)の割合が増加しています。



③ 出産・育児に関する意向

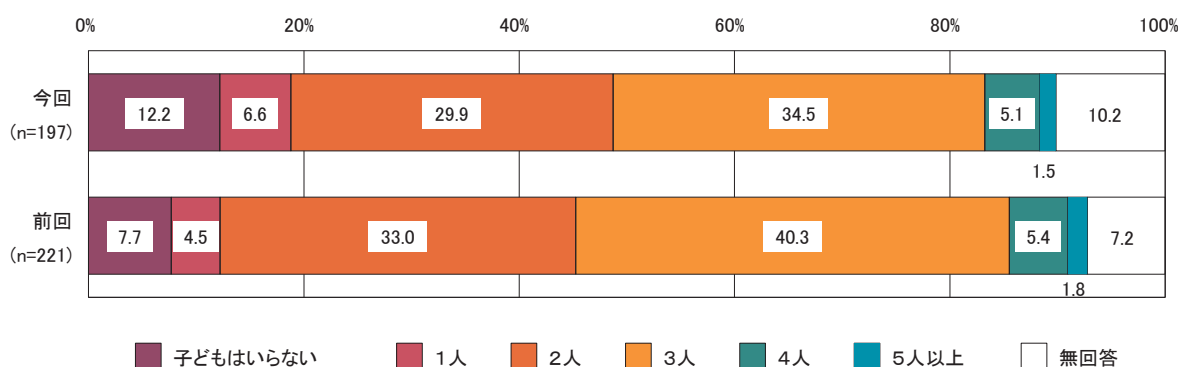
「将来的に何人のお子さんを持つご予定ですか（現在いるお子さんの人数も含む）。（単数回答）」

- 将来的に予定しているお子さんの人数は、「2人」が33.0%と最も多く、次いで「子どもはいらない」が18.8%、「3人」が15.7%、「1人」が15.2%と続いています。
- 前回と比べると、「子どもはいらない」（今回：18.8%、前回：11.3%）と「1人」（今回：15.2%、前回：8.1%）が増加しています。



「あなたにとって理想的な子どもの数は何人ですか（現在いるお子さんの人数も含む）。（単数回答）」

- 理想的な子どもの人数は、「3人」が34.5%と最も多く、次いで、「2人」が29.9%、「子どもはいらない」が12.2%、「1人」が6.6%、「4人」が5.1%と続いています。
- 前回と比べると、「子どもはいらない」（今回：12.2%、前回：7.7%）がやや増加しています。
- 問7将来的な予定（子どもの人数）別にみると、「1人（予定）」と答えた層では、「2人（理想）」が43.3%と多くなっています。

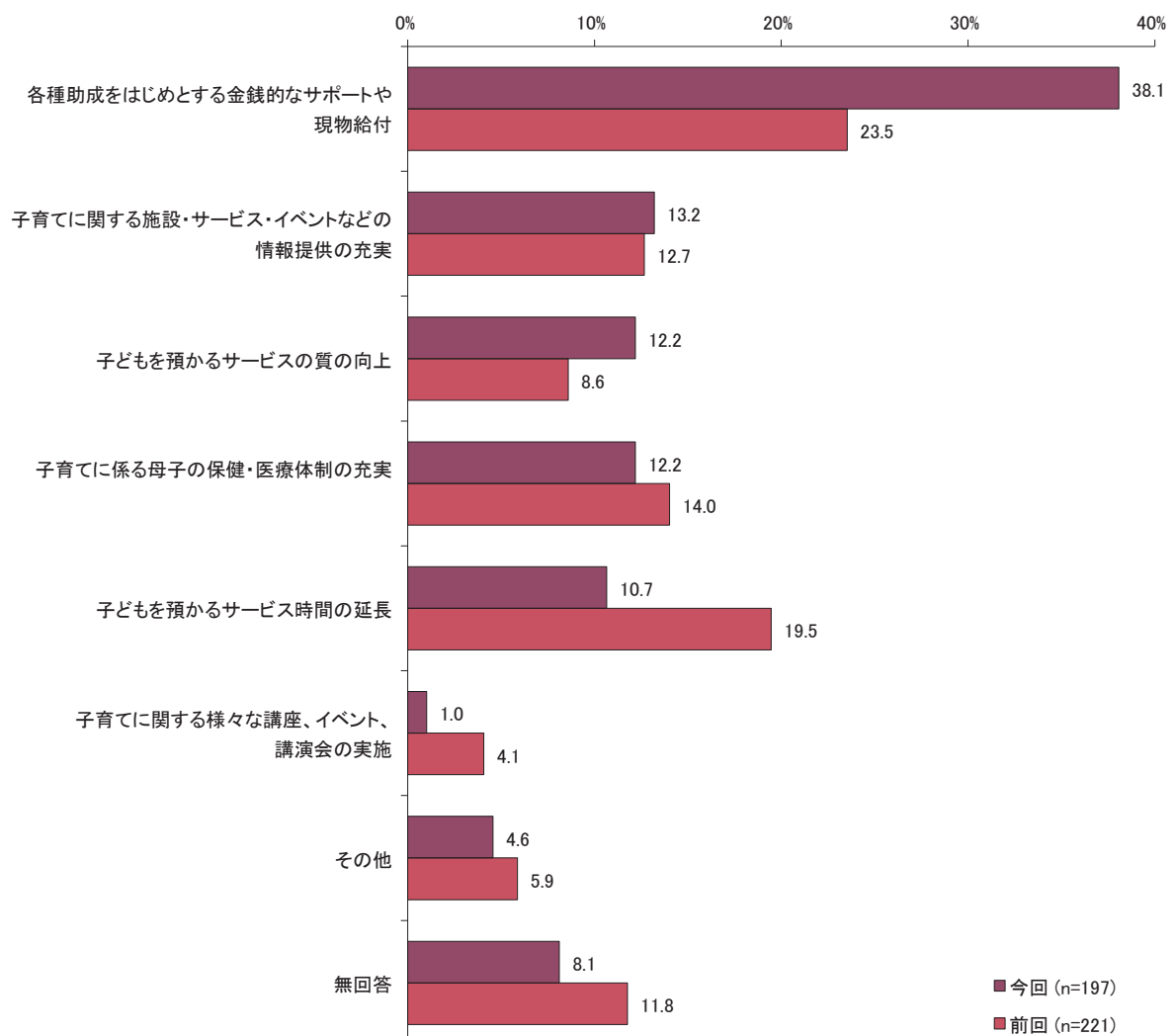


		n数	子どもはいらない	1人	2人	3人	4人	5人以上	無回答
全体		197	12.2%	6.6%	29.9%	34.5%	5.1%	1.5%	10.2%
問7 将来的な 予定	子どもはいらない	37	64.9%	5.4%	8.1%	18.9%	0.0%	0.0%	2.7%
	1人	30	0.0%	36.7%	43.3%	16.7%	3.3%	0.0%	0.0%
	2人	65	0.0%	0.0%	60.0%	36.9%	3.1%	0.0%	0.0%
	3人	31	0.0%	0.0%	3.2%	87.1%	6.5%	3.2%	0.0%
	4人	8	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%	62.5%	12.5%	12.5%
	5人以上	1	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%

※網掛け：各分類層での第1位回答

「今後、育児に関するサービスとして、南牧村が最も力を入れるべきだと思うのは次のうち、どれですか。(単数回答)」

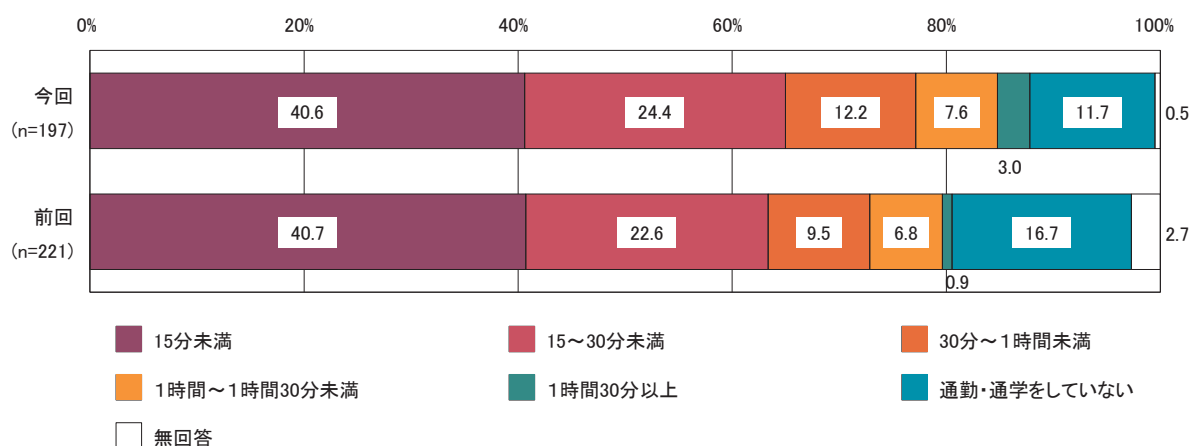
- 南牧村が最も力を入れるべきだと思う育児に関するサービスは、「各種助成をはじめとする金銭的なサポートや現物給付」が38.1%と最も多く、次いで「子育てに関する施設・サービス・イベントなどの情報提供の充実」が13.2%、「子どもを預かるサービスの質の向上」と「子育てに係る母子の保健・医療体制の充実」がともに12.2%、「子どもを預かるサービス時間の延長」が10.7%と続いています。
- 前回と比べると、「各種助成をはじめとする金銭的なサポートや現物給付」（今回：38.1%、前回：23.5%）が増加しています。



④ 住みやすさについて

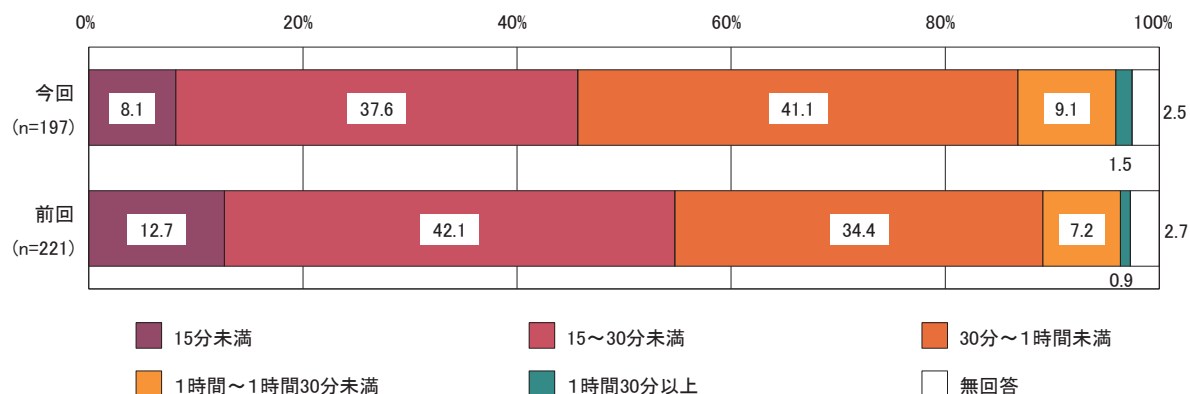
「あなたが、通勤・通学等で要する時間はどれくらいですか。(単数回答)」

- 通勤・通学等で要する時間は、「15分未満」が40.6%と最も多く、次いで「15～30分未満」が24.4%、「30分～1時間未満」が12.2%、「通勤・通学をしていない」が11.7%と続いています。
- 前回と比べると、「15分未満」(今回：40.6%、前回：40.7%)が最も多いことに違いは見られません。また、「通勤・通学をしていない」(今回：11.7%、前回：16.7%)の割合が減少しています。



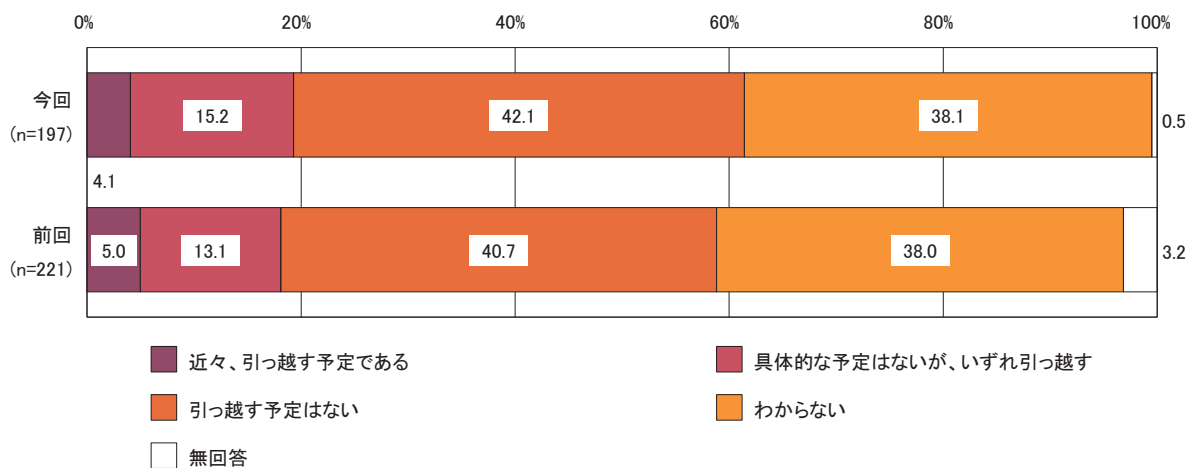
「あなたが、通勤・通学等で要する時間として許容できる時間はどれくらいですか。(単数回答)」

- 通勤・通学等で要する時間として許容できる時間は、「30分～1時間未満」が41.1%と最も多く、次いで「15～30分未満」が37.6%、「1時間～1時間30分未満」が9.1%と続いています。
- 前回と比べると、「30分～1時間未満」(今回：41.1%、前回：34.4%)がやや増加しています。



「あなたは、近い将来、南牧村外へ引っ越すご予定はありますか。(単数回答)」

- 近い将来、村外へ引っ越す予定は、「引っ越す予定はない」が42.1%と最も多く、次いで「わからない」が38.1%、「具体的な予定はないが、いずれ引っ越す」が15.2%、「近々、引っ越す予定である」が4.1%となっています。
- 前回と比べると、大きな違いは見られません。
- 年齢×性別でみると、男女ともに29歳以下で「わからない」の割合が多くなっています。

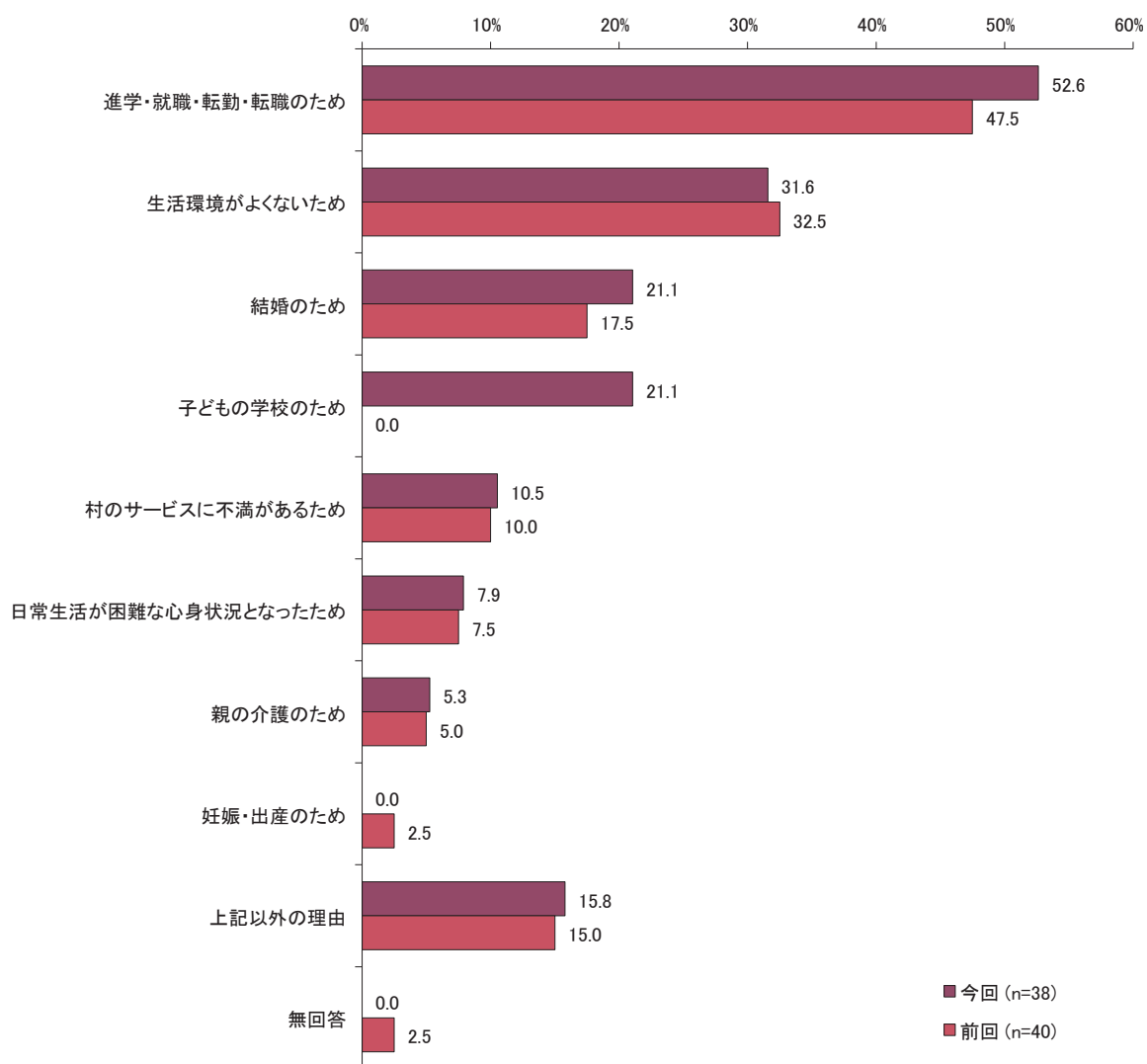


		n 数	近々、引っ越す 予定である	具体的な予定は ないが、いずれ 引っ越す	引っ越す予定は ない	わからない	無回答
全体		197	4.1%	15.2%	42.1%	38.1%	0.5%
年齢 × 性別	19歳 _ 男性	3	33.3%	0.0%	0.0%	66.7%	0.0%
	19歳 _ 女性	1	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
	20～24歳 _ 男性	11	9.1%	27.3%	18.2%	45.5%	0.0%
	20～24歳 _ 女性	18	16.7%	16.7%	11.1%	55.6%	0.0%
	25～29歳 _ 男性	14	0.0%	28.6%	28.6%	42.9%	0.0%
	25～29歳 _ 女性	12	0.0%	33.3%	8.3%	58.3%	0.0%
	30～34歳 _ 男性	7	0.0%	14.3%	85.7%	0.0%	0.0%
	30～34歳 _ 女性	11	0.0%	27.3%	45.5%	27.3%	0.0%
	35～40歳 _ 男性	22	4.5%	4.5%	36.4%	54.5%	0.0%
	35～40歳 _ 女性	20	5.0%	25.0%	35.0%	35.0%	0.0%
	40歳以上 _ 男性	36	0.0%	11.1%	58.3%	27.8%	2.8%
	40歳以上 _ 女性	40	2.5%	2.5%	67.5%	27.5%	0.0%

※網掛け：各分類層での第1位回答

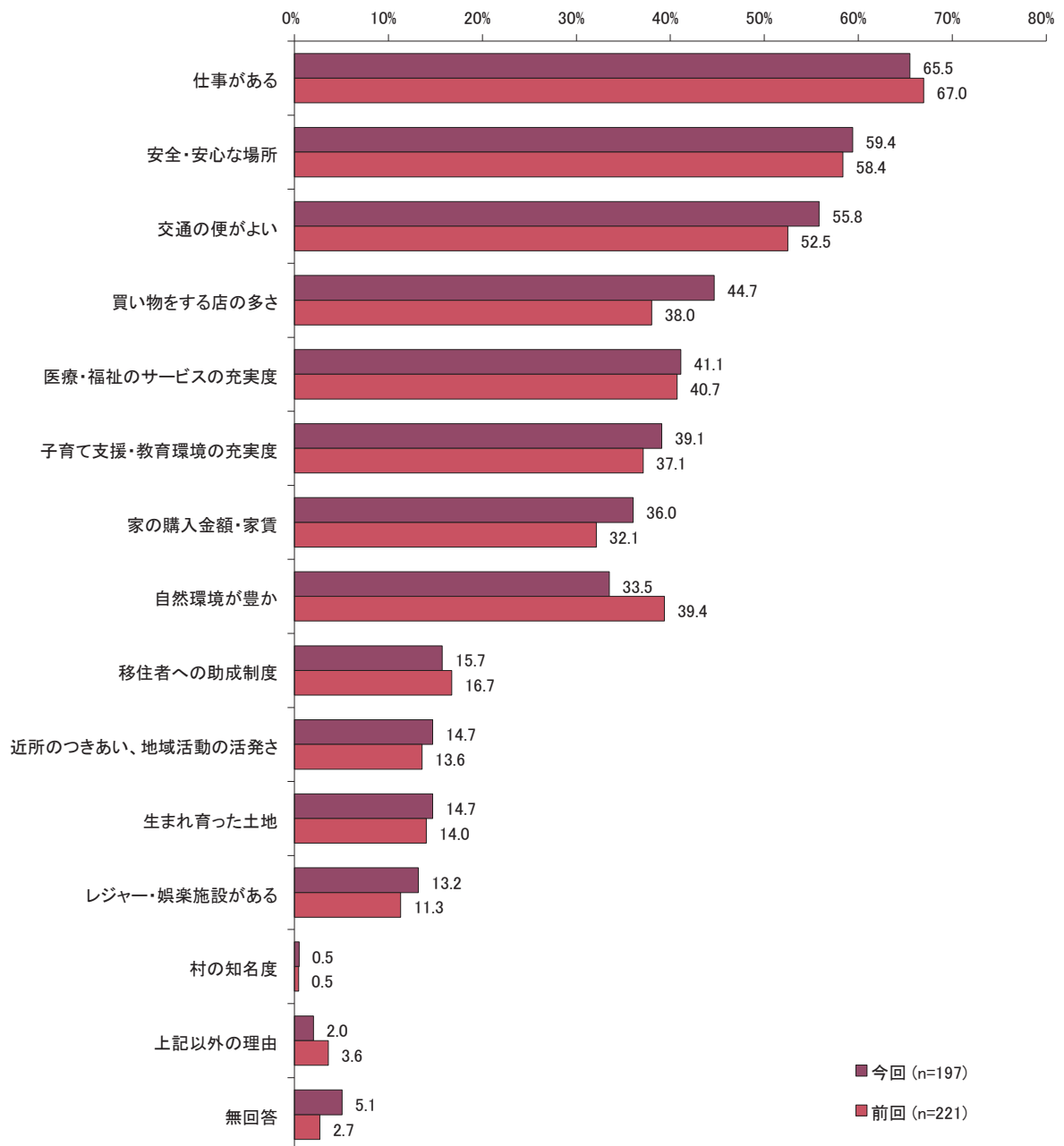
「【「近々、引っ越す予定である」、「具体的な予定はないが、いずれ引っ越す」を選択した方に】引っ越す理由は何ですか。(複数回答)」

- 引っ越す理由は、「進学・就職・転勤・転職のため」が52.6%と最も多く、次いで「生活環境がよくないため」が31.6%、「結婚のため」と「子どもの学校のため」がともに21.1%、「村のサービスに不満があるため」が10.5%と続いています。
- 前回と比べると、「子どもの学校のため」(今回：21.1%、前回：0%)が増加しています。



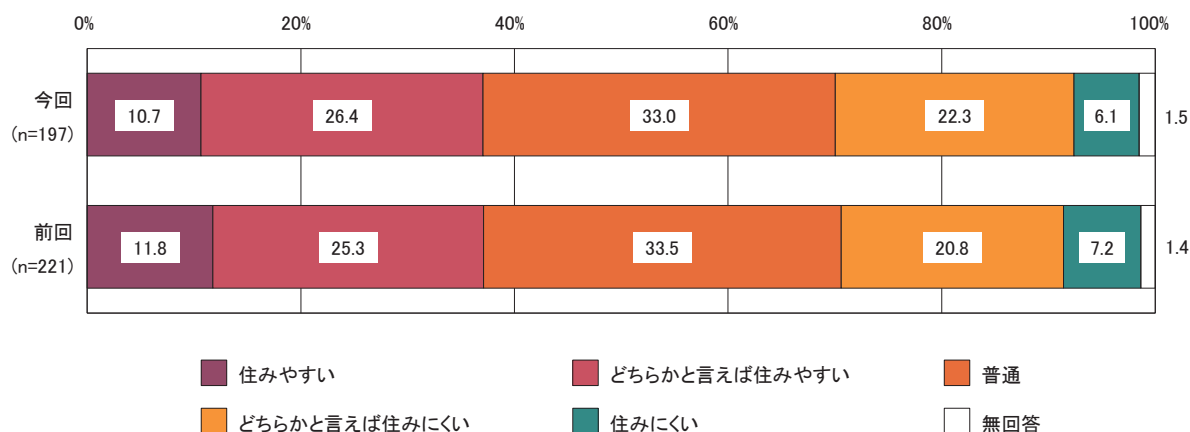
「あなたが、住む場所を検討する際に、重視する点は何ですか。(複数回答)」

- 住む場所を検討する際に、重視する点は、「仕事がある」が65.5%と最も多く、次いで「安全・安心な場所」が59.4%、「交通の便がよい」が55.8%、「買い物をする店の多さ」が44.7%、「医療・福祉のサービスの充実度」が41.1%と続いています。
- 前回と比べると、上位に挙げられている項目に変化は見られませんが、「買い物をする店の多さ」(今回：44.7%、前回：38.0%)が増加しています。



「あなたは、南牧村を住みやすい村だと思いますか。(単数回答)」

- 本村の住みやすさについては、「普通」が33.0%と最も多く、次いで「どちらかと言えば住みやすい」が26.4%、「どちらかと言えば住みにくい」が22.3%、「住みやすい」が10.7%、「住みにくい」が6.1%となっています。
- 前回と比べると、大きな違いは見られません。
- 年齢×性別でみると、『住みやすい』は25～29歳の男女の各層で過半数を超えています。



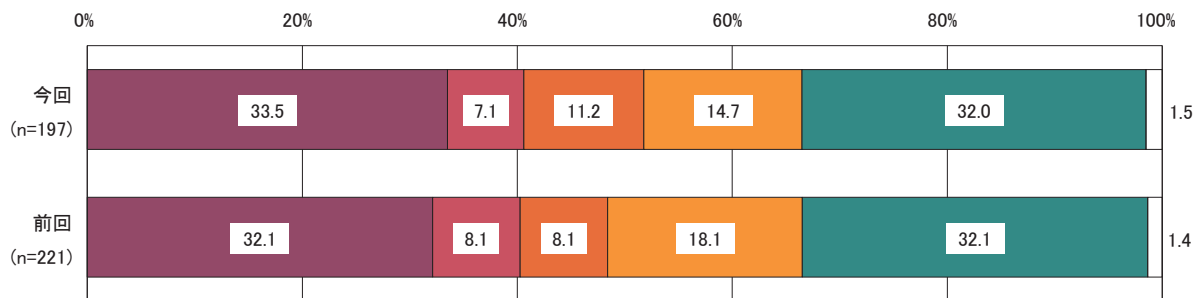
	n 数	住みやすい	どちらか と言えば住み やすい	普通	どちらか と言えば住み にくい	住みにくい	無回答	『住みやす い』	『住みにく い』
全体	197	10.7%	26.4%	33.0%	22.3%	6.1%	1.5%	37.1%	28.4%
年齢×性別	19歳_男性	3	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%	33.3%
	19歳_女性	1	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	20～24歳_男性	11	9.1%	36.4%	18.2%	18.2%	9.1%	45.5%	27.3%
	20～24歳_女性	18	11.1%	27.8%	22.2%	33.3%	5.6%	0.0%	38.9%
	25～29歳_男性	14	21.4%	28.6%	28.6%	21.4%	0.0%	50.0%	21.4%
	25～29歳_女性	12	25.0%	33.3%	8.3%	16.7%	16.7%	0.0%	58.3%
	30～34歳_男性	7	28.6%	14.3%	42.9%	0.0%	14.3%	0.0%	42.9%
	30～34歳_女性	11	0.0%	18.2%	63.6%	18.2%	0.0%	18.2%	18.2%
	35～40歳_男性	22	13.6%	13.6%	27.3%	36.4%	4.5%	27.2%	40.9%
	35～40歳_女性	20	0.0%	30.0%	40.0%	25.0%	5.0%	30.0%	30.0%
	40歳以上_男性	36	19.4%	27.8%	33.3%	16.7%	2.8%	47.2%	19.5%
	40歳以上_女性	40	0.0%	30.0%	40.0%	22.5%	5.0%	30.0%	27.5%

※網掛け：各分類層での第1位回答

※『住みやすい』は「住みやすい」と「どちらかと言えば住みやすい」を、『住みにくい』は「住みにくい」と「どちらかと言えば住みにくい」をそれぞれ足した割合

「あなたは、将来的にも南牧村に住み続けたいと思いますか。(単数回答)」

- 将来的な本村への定住意向は、「これからもずっと南牧村に住み続けたい」が33.5%と最も多く、次いで「わからない」が32.0%、「これからも南牧村に住み続けることになると思うが、できるなら南牧村を離れたい」が14.7%と続いています。
- 前回と比べると、大きな違いは見られません。
- 年齢×性別でみると、「これからもずっと南牧村に住み続けたい」は30～34歳の男性と40歳以上の男女の各層で最も多くなっています。



- これからもずっと南牧村に住み続けたい
- 将来、進学・就職・転職等で南牧村を離れると思うが、いつかは戻って住みたい
- 将来、進学・就職等で南牧村を離れると思うが、そのまま戻るつもりはない
- これからも南牧村に住み続けることになると思うが、できるなら南牧村を離れたい
- わからない
- 無回答

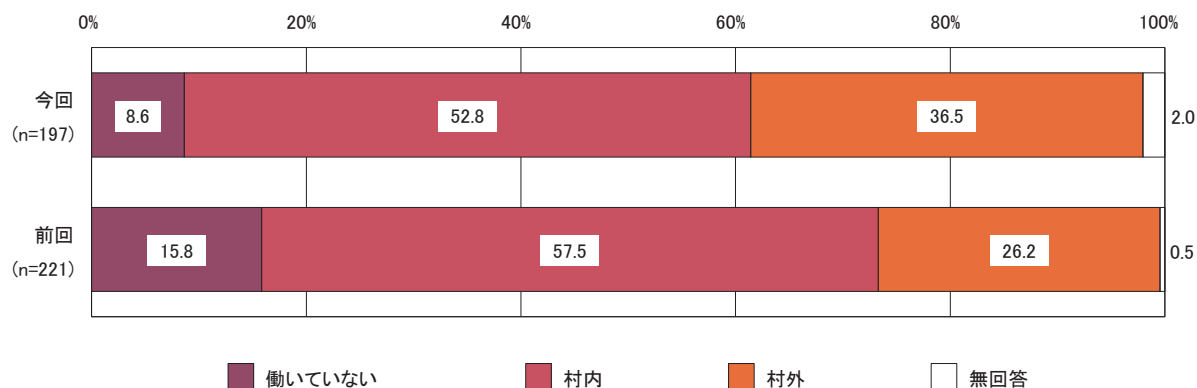
		n 数	これからもずっと南牧村に住み続けたい	南牧村を離れると思うが、いつかは戻って住みたい	南牧村を離れると思うが、そのまま戻るつもりはない	できるなら南牧村を離れたい	わからない	無回答
全体		197	33.5%	7.1%	11.2%	14.7%	32.0%	1.5%
年齢×性別	19歳_男性	3	0.0%	0.0%	66.7%	0.0%	33.3%	0.0%
	19歳_女性	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	20～24歳_男性	11	9.1%	36.4%	9.1%	0.0%	36.4%	9.1%
	20～24歳_女性	18	16.7%	22.2%	38.9%	5.6%	16.7%	0.0%
	25～29歳_男性	14	28.6%	7.1%	14.3%	0.0%	50.0%	0.0%
	25～29歳_女性	12	8.3%	8.3%	25.0%	33.3%	25.0%	0.0%
	30～34歳_男性	7	71.4%	0.0%	0.0%	28.6%	0.0%	0.0%
	30～34歳_女性	11	36.4%	9.1%	0.0%	9.1%	45.5%	0.0%
	35～40歳_男性	22	22.7%	4.5%	9.1%	18.2%	40.9%	4.5%
	35～40歳_女性	20	30.0%	0.0%	15.0%	15.0%	40.0%	0.0%
	40歳以上_男性	36	52.8%	0.0%	5.6%	19.4%	22.2%	0.0%
	40歳以上_女性	40	45.0%	0.0%	0.0%	17.5%	35.0%	2.5%

※網掛け：各分類層での第1位回答

⑤ 働くことについて

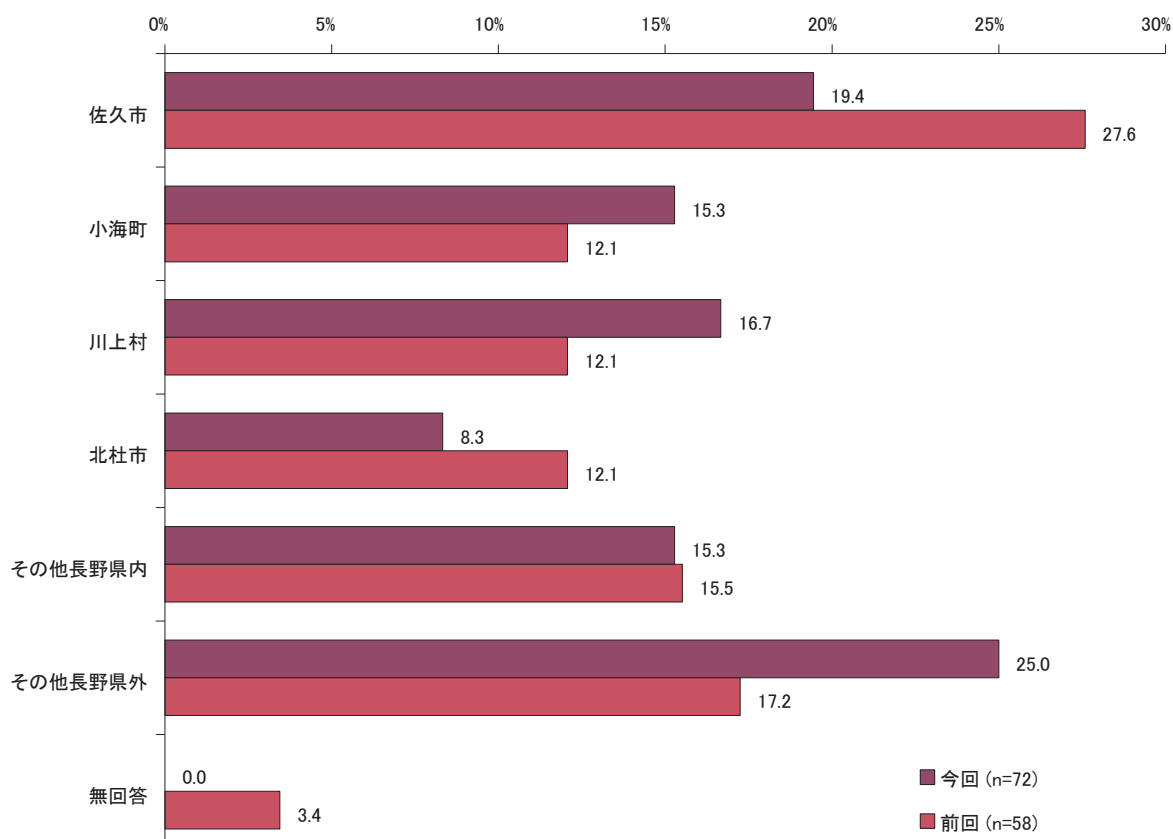
「あなたは、現在、どこで働いていますか
(パート・アルバイトなどを含む)。(単数回答)」

- 現在、働いている場所は、「村内」が52.8%と最も多く、次いで「村外」が36.5%、「働いていない」が8.6%となっています。
- 前回と比べると、「村外」(今回：36.5%、前回：26.2%)の割合が増加しています。



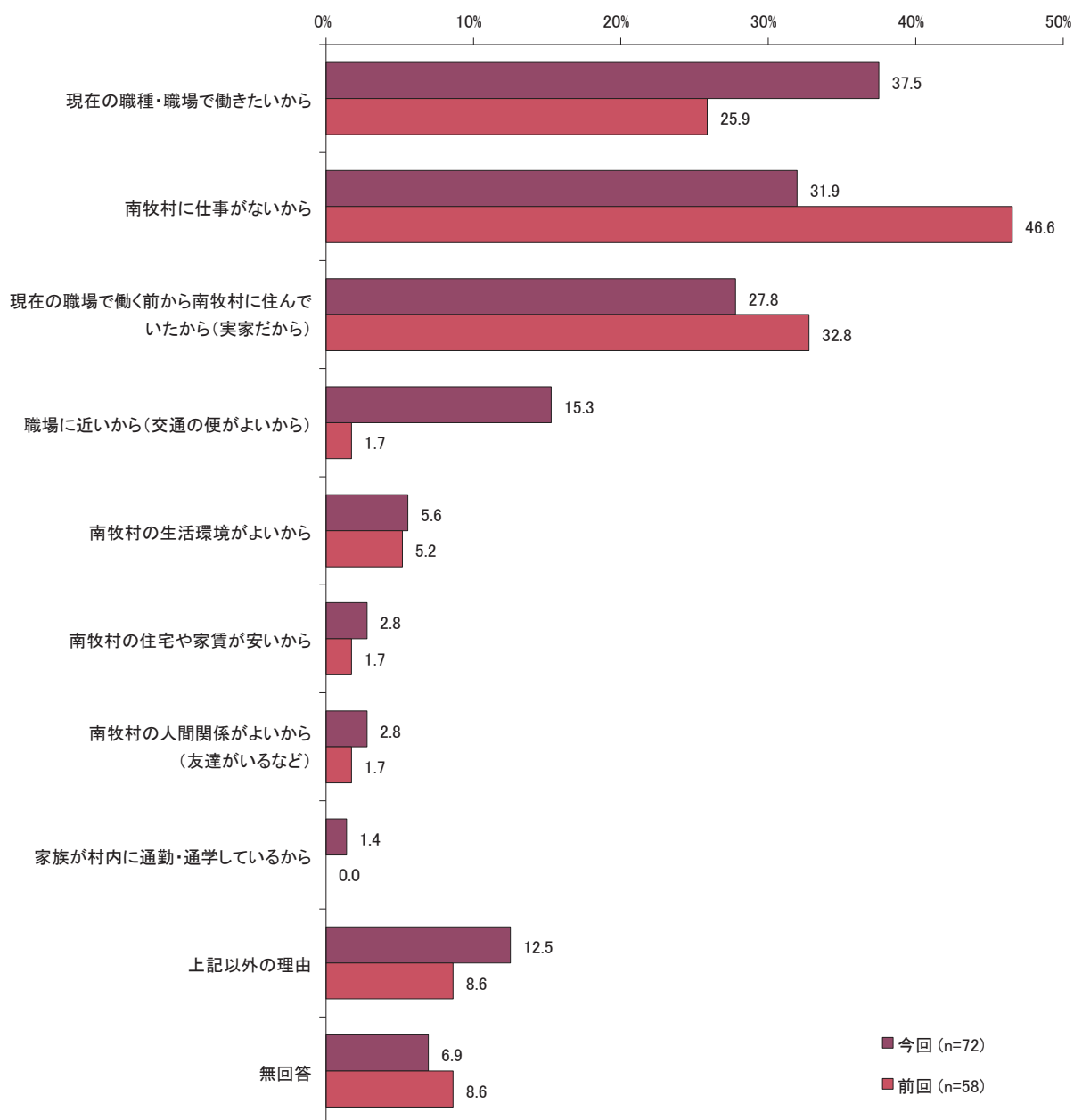
「『村外』を選択した方に」どこで働いていますか。(単数回答)」

- 村外で働いている場所は、「佐久市」が19.4%と最も多く、次いで「川上村」が16.7%、「小海町」が15.3%、「北杜市」が8.3%と続いています。
- 前回と比べると、「佐久市」(今回：19.4%、前回：27.6%)が減少しています。



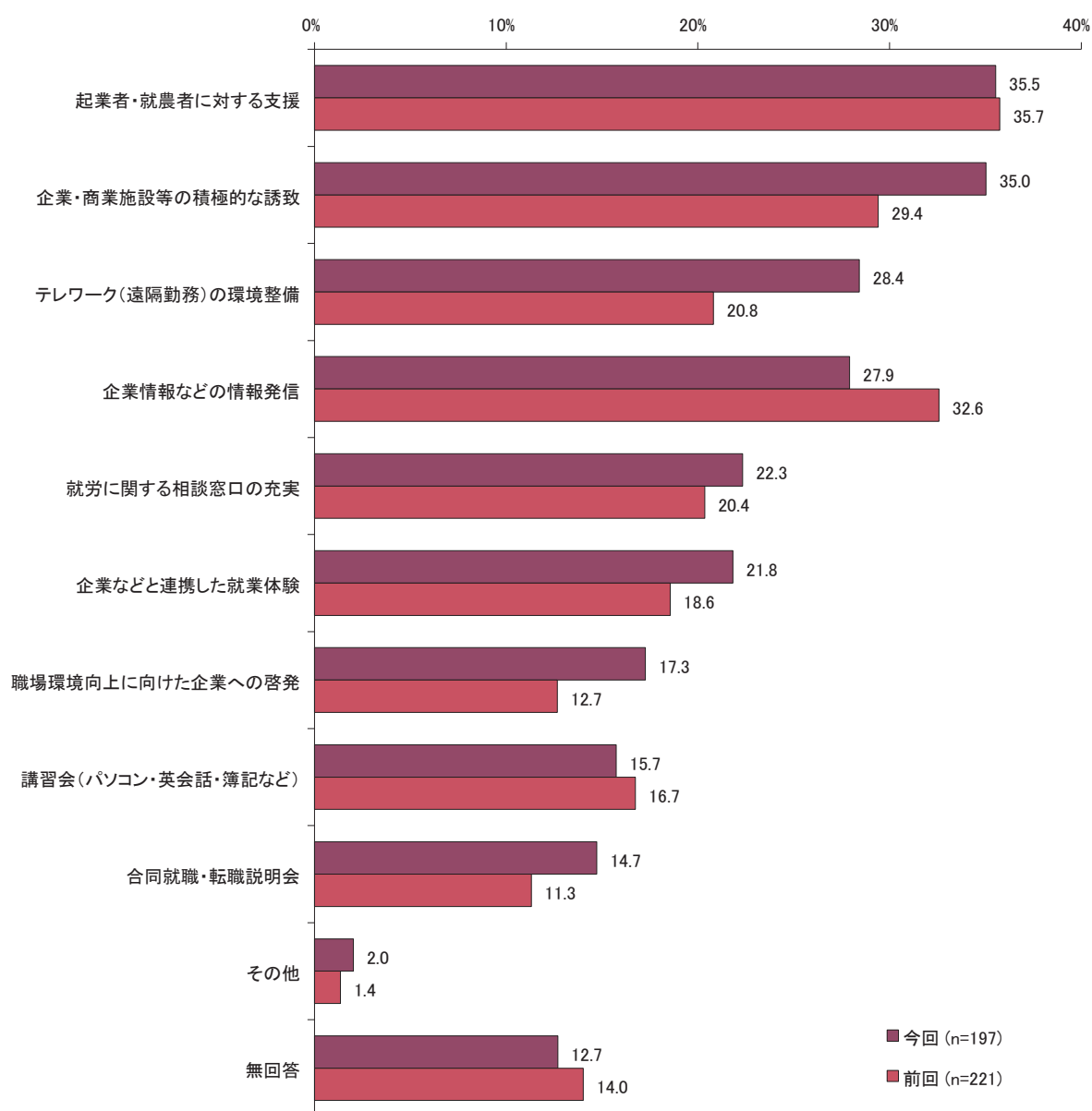
「村外」を選択した方に 現在、南牧村に居住しながら村外で働いている理由は何ですか。(複数回答)

- 村外で働いている理由は、「現在の職種・職場で働きたいから」が37.5%と最も多く、次いで「南牧村に仕事がないから」が31.9%、「現在の職場で働く前から南牧村に住んでいたから（実家だから）」が27.8%と続いています。
- 前回と比べると、「現在の職種・職場で働きたいから」（今回：37.5%、前回：25.9%）と「職場に近いから（交通の便がよいから）」（今回：15.3%、前回：1.7%）が増加し、「南牧村に仕事がないから」（今回：31.9%、前回：46.6%）が減少しています。



「南牧村のよりよい労働環境を形成するために、次の行政サービスのうち、必要だと感じるものはどれですか。(複数回答)」

- 本村のよりよい労働環境を形成するために、「起業者・就農者に対する支援」が35.5%と最も多く、次いで「企業・商業施設等の積極的な誘致」が35.0%、「テレワーク（遠隔勤務）の環境整備」が28.4%、「企業情報などの情報発信」が27.9%、「就労に関する相談窓口の充実」が22.3%と続いています。
- 前回と比べると、上位に挙げられている項目に変化は見られませんが、「テレワーク（遠隔勤務）の環境整備」（今回：28.4%、前回：20.8%）と「企業・商業施設等の積極的な誘致」（今回：35.0%、前回：29.4%）が増加しています。

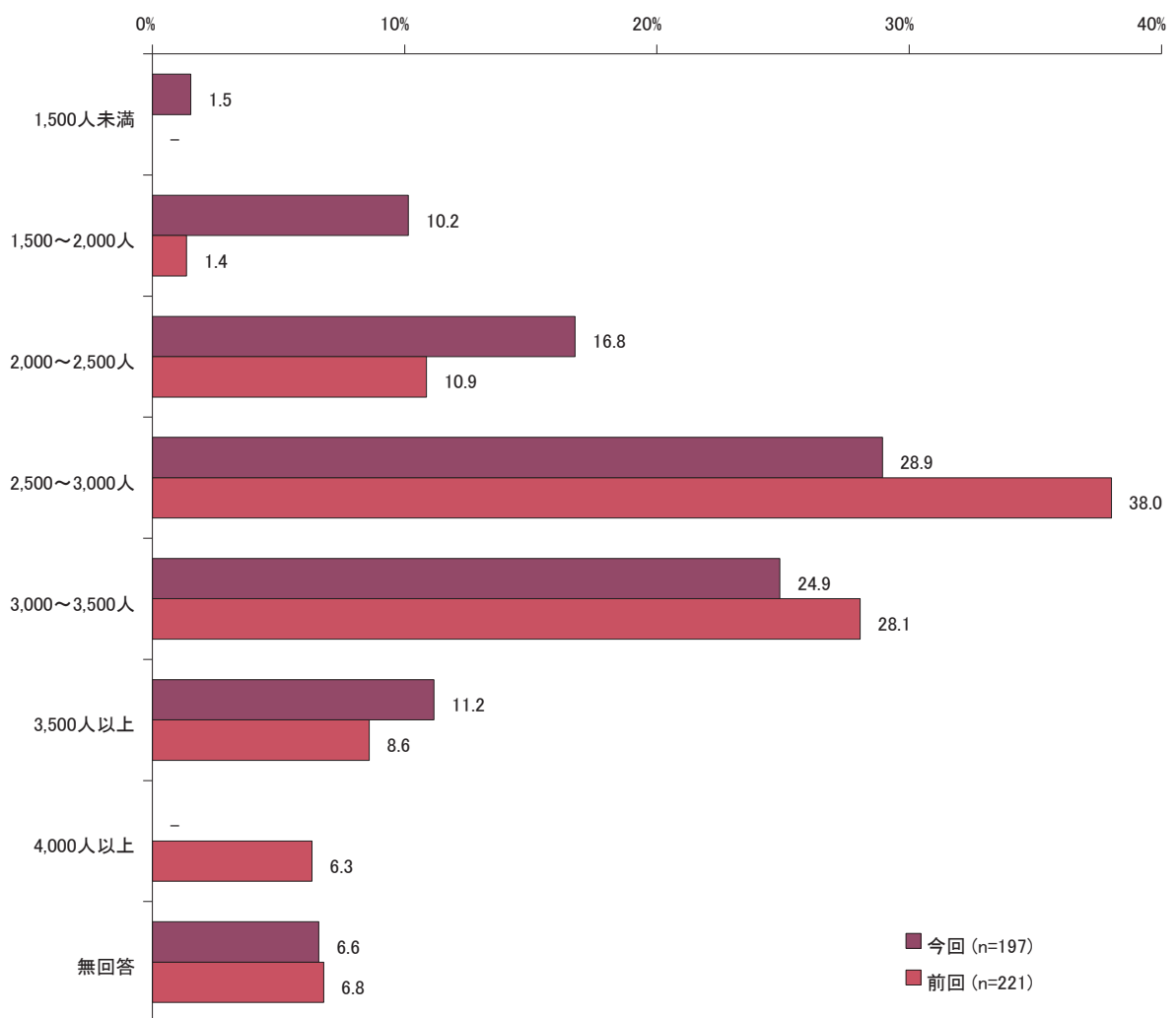


⑥ 人口減少社会におけるまちづくりについて

「南牧村の人口として、何人くらいがちょうどよいと思いますか。(単数回答)」

- 本村の望ましい人口規模は、「2,500～3,000人」が28.9%と最も多く、次いで「3,000～3,500人」が24.9%、「2,000～2,500人」が16.8%と続いています。
- 前回と比べると、「2,500～3,000人」(今回：28.9%、前回：38.0%)が最も多いことに違いは見られませんが、「2,000～2,500人」(今回：16.8%、前回：10.9%)と「1,500～2,000人」(今回：10.2%、前回：1.4%)が増加しています。

※今回に「4,000人以上」、前回に「1,500人未満」の選択肢はありません。



3 人口の将来展望

将来の目標人口は、南牧村内の人口の現状分析や住民の希望、国及び長野県の長期ビジョン・まち・ひと・しごと創生総合戦略等を踏まえ、目標としながら、南牧村内の様々な政策・施策と人口対策、企業・団体・村民等による取組みによって、村民の結婚・出産・子育ての希望を実現し、人口移動の目標を達成することにより、南牧村の将来の姿を提示することを目的としています。

人口推計に関しては、国勢調査の総人口を基にした結果では、実際には本村に定住していない外国人農業実習生等が多く含まれていることから、住民基本台帳を基に日本人を中心とする定住人口を推計した本村独自の人口推計を採用し、将来の目標人口を以下のとおり設定します。なお、この目標人口は最低限確保する水準と位置づけ、移住・定住促進策を推進することにより、目標人口を上回る水準を目指すこととします。

【合計特殊出生率の目標】

2030（令和12）年以降、県民希望出生率1.84以上の維持

【社会移動の目標】

2030（令和12）年以降、移動均衡（社会増減ゼロ）

【将来の目標定住人口（最低限確保する水準）】

2065（令和47）年の総人口：概ね2,000人

第2部

総合戦略



第1章

第2章

第3章

第4章

第1章 総合戦略策定にあたって

1 総合戦略策定の背景と目的

国においては、まち・ひと・しごと創生法（平成26年法律第136号）が制定され、2014（平成26）年に、人口の現状と将来展望を提示する「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び今後5か年の政府の施策の方向を提示する「まち・ひと・しごと創生総合戦略」が閣議決定されました。

地方公共団体においては、国の長期ビジョン及び総合戦略を勘案して、地方公共団体における人口の現状と将来展望を提示する「地方人口ビジョン」及び地域の実情に応じた今後5か年の施策の方向を提示する都道府県まち・ひと・しごと創生総合戦略及び市町村まち・ひと・しごと総合戦略の策定に努めることとなりました。

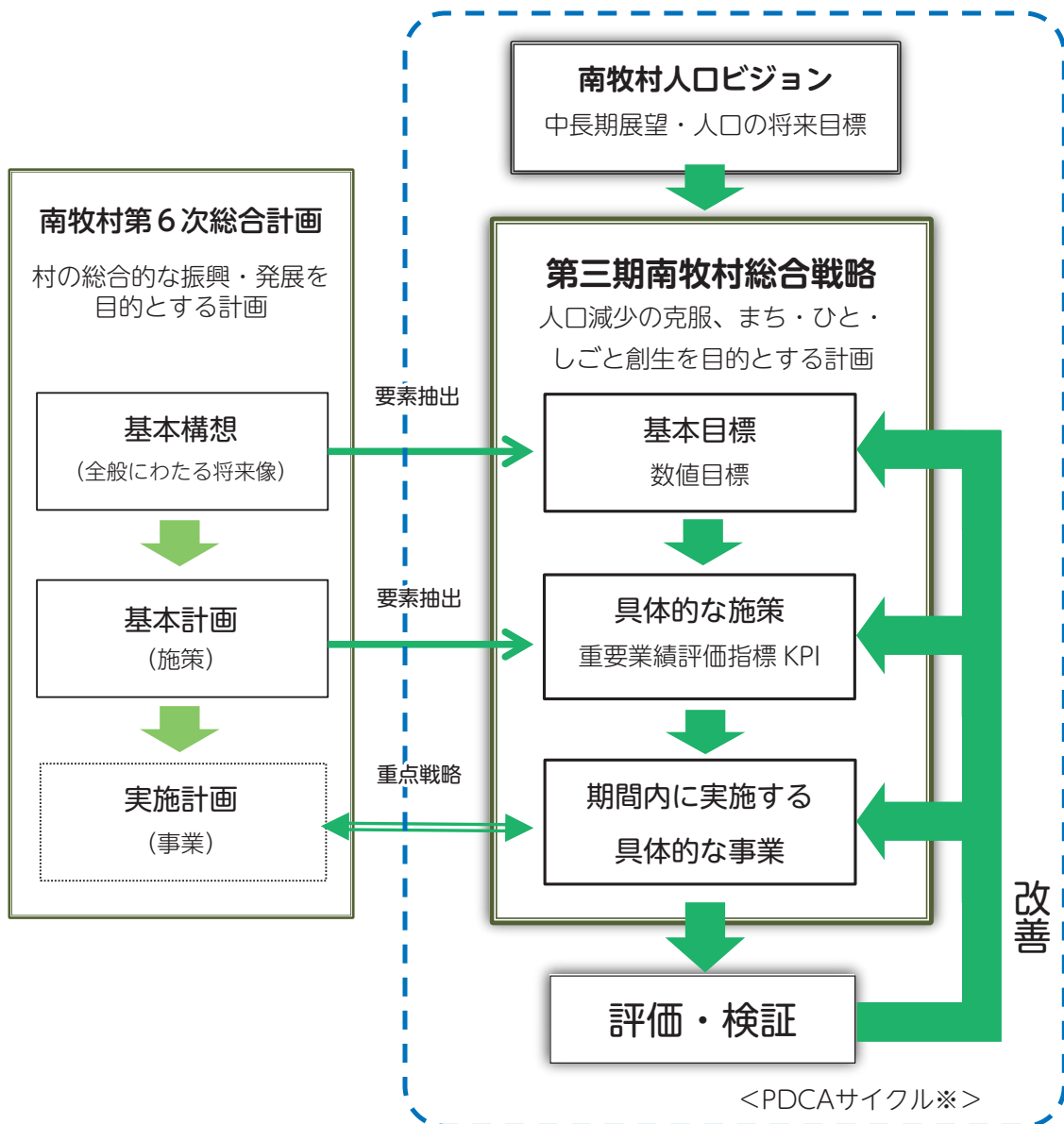
これを受けて、本村では、本村の人口の現状と将来の姿を示し、人口に関する村民の認識の共有を目指すとともに、今後の目標や施策の基本的方向を提示することを目的とした「南牧村人口ビジョン・まち・ひと・しごと総合戦略」を2015（平成27）年に、「南牧村人口ビジョン・第二期まち・ひと・しごと総合戦略」を2021（令和3）年に策定して施策を推進してきました。

また、2021（令和3年）には、国において、地域の豊かさをそのままに、都市と同じ又は違った利便性と魅力を備えた魅力溢れる新たな地域づくりを目指す、デジタル田園都市国家構想が始動しました。これに基づき、2023（令和5）年度から2027（令和9）年度までの5か年の「デジタル田園都市国家構想総合戦略」が閣議決定されました。これは、デジタルの力を活用して地方創生を加速化・深化し、全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会を目指すものです。併せて、これまでの地方創生の取り組みも、蓄積された成果や知見に基づき、地域ビジョンを再構築し、改善を加えながら推進していくことが重要とされました。

そこで、本村では、計画期間満了を迎える「南牧村人口ビジョン・第二期まち・ひと・しごと総合戦略」を見直し、「第三期南牧村まち・ひと・しごと創生総合戦略」（以下、「第三期南牧村総合戦略」とします。）を2025（令和7）年に新たに策定しました。

2 南牧村第6次総合計画との関係

本村における最上位計画として、2024（令和6）年度～2033（令和15）年度を計画期間とする「南牧村第6次総合計画」を策定しており、現在は前期基本計画に基づき各種の施策を推進しています。この総合計画は、南牧村の総合的な振興や発展を図ることを目的に、行政全般にわたっての理念と施策を定め、主要な取り組みを計画したもので、人口減少や地域産業の活性化などの本村の多様な課題を克服するための施策を展開する点では共通しています。そのため、第三期南牧村総合戦略は、南牧村第6次総合計画後期基本計画における「まち・ひと・しごとの創生」に関係する分野の重点戦略・実施計画の一部と位置付け、「南牧村人口ビジョン」に掲げた将来展望の実現に向けた政策パッケージとして、南牧村の特性や実情にあった具体的な施策・事業を明らかにしています。



※PDCAサイクル：PLAN（計画）、DO（実施）、CHECK（評価）、ACTION（改善）の4つの視点をプロセスの中に取り込むことで、プロセスを不断のサイクルとし、継続的な改善を推進するマネジメント手法のこと。

3 総合戦略の計画期間

第三期南牧村総合戦略は、南牧村人口ビジョンの長期展望に対する短期の目標・計画として、2025（令和7）年度から2028（令和10）年度までの4年間を計画期間とします。

年度	2025	2028	2035	2040	2045	2050	2055	2060	2065
南牧村人口ビジョン					中間目標				最終目標
第三期南牧村総合戦略		目標							

第2章 第三期南牧村総合戦略の考え方

1 基本的考え方

- テレワークの普及や地方移住への関心の高まりなど、社会情勢がこれまでとは大きく変化している中、今こそデジタルの力を活用して地方創生を加速化・深化し、「全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会」を目指す。
- 東京圏への過度な一極集中の是正や多極化を図り、地方に住み働きながら、都会に匹敵する情報やサービスを利用できるようにすることで、地方の社会課題を成長の原動力とし、地方から全国へとボトムアップの成長につなげていく。
- デジタル技術の活用は、その実証の段階から実装の段階に着実に移行しつつあり、デジタル実装に向けた各府省庁の施策の推進に加え、デジタル田園都市国家構想交付金の活用等により、各地域の優良事例の横展開を加速化する。
- これまでの地方創生の取り組みも、全国で取り組まれてきた中で蓄積された成果や知見に基づき、改善を加えながら推進していくことが重要である。

2 ポイント

- 国では、まち・ひと・しごと創生総合戦略を抜本的に改訂し、2023年度から2027年度までの5か年の新たな総合戦略を策定。デジタル田園都市国家構想基本方針で定めた取り組みの方向性に沿って、各府省庁の施策の充実・具体化を図るとともに、KPIとロードマップ（工程表）を位置付けた。
- 地方は、地域それぞれが抱える社会課題等を踏まえ、地域の個性や魅力を活かした地域ビジョンを再構築し、地方版総合戦略を改訂する。地域ビジョン実現に向け、国は政府一丸となって総合的・効果的に支援する観点から、必要な施策間の連携をこれまで以上に強化するとともに、同様の社会課題を抱える複数の地方公共団体が連携して、効果的かつ効率的に課題解決に取り組むことができるよう、デジタルの力も活用した地域間連携の在り方や推進策を提示する。

3 デジタルの力を活用した地方の社会課題解決

- ① 地方に仕事をつくる
- ② 人の流れをつくる
- ③ 結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- ④ 魅力的な地域をつくる

【デジタル実装の基礎条件整備】

- ① デジタル基盤の整備
- ② デジタル人材の育成・確保
- ③ 誰一人取り残されないための取組

4 南牧村の基本理念

少子高齢化の急速な進行や厳しい社会経済状況、地域主権の推進という時代背景の中、南牧村の実情に応じた特色ある持続可能なむらづくりを推進するため、基本構想では、以下の4つの基本理念（基本的な考え方）を引き続き掲げています。



理念1

“南牧村らしさ”を伸ばす

美しい景観や星空、冷涼な気候、全国有数の農産物、心温かい村民気質など、南牧村が有する地域資源のよさを再認識しつつ、最大限活用しながら、常に「南牧らしさ」を追求し、伸ばしていくむらづくりを推進します。



理念2

“一人ひとりの笑顔”をつくる

子どもや若者、働く人々、高齢者をはじめ、すべての村民が自分らしく暮らし、村を訪れる人々が充実した時間を過ごすことができる、笑顔あふれるむらづくりを推進します。



理念3

“安全・安心”を守る

本村のすべての人の安全が守られ、安心して過ごすことができるよう、多様な主体が連携・協力しながら、地域ぐるみで取り組むむらづくりを推進します。



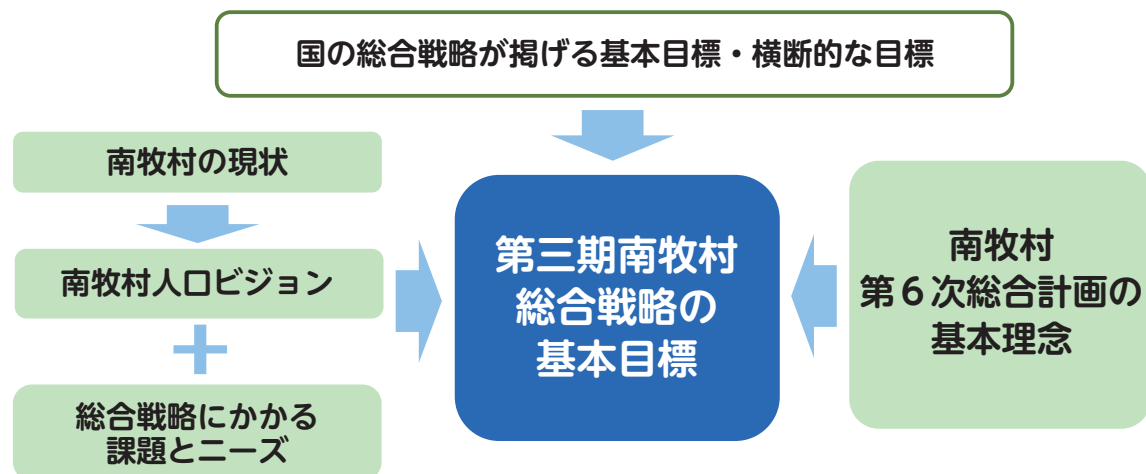
理念4

“持続可能なむら”をつくる

将来にわたって活力ある村であり続けることができるよう、村民と行政による協働のむらづくりを推進するとともに、若者が夢をもって暮らし、次代を担う子どもたちが健やかに育つ、持続可能なむらづくりを推進します。

5 基本目標の設定

国が示す基本目標に基づき、南牧村第6次総合計画における本村の基本理念、現状の課題・ニーズ等を踏まえ、第三期南牧村総合戦略における地域ビジョンと基本目標を4つ設定します。基本目標にはそれぞれ、実現すべき成果（アウトカム）を重視した数値目標を設定するものとします。



【地域ビジョン】

安心して働き、安心して暮らせるみんなが集うむら 南牧

【基本目標】

- 基本目標1 <「しごと」の創生>
稼ぐ南牧村をつくるとともに、安心して働けるようにします
- 基本目標2 <「ひと」の創生>
他の地域とつながり、南牧村への新しい人の流れをつくります
- 基本目標3 <「ひと」の創生>
若い世代の定住を促進し、結婚・出産・子育ての希望をかなえます
- 基本目標4 <「まち」の創生>
ひとが集う、安全で安心に暮らせる魅力的な南牧村をつくります

この4つの基本目標の分野ごとに、南牧村第6次総合計画の基本政策・主要施策等から講ずべき施策の基本的な方向と具体的な施策を盛り込み、具体的な施策ごとに客観的な重要業績評価指標（KPI）を設定します。また、設定した数値目標等を基に、実施した施策・事業の効果を外部有識者等の参画により検証し、必要に応じて第三期南牧村総合戦略の改訂を行うことにより、PDCAサイクルを確立していきます。

第3章 基本目標ごとの施策の展開

基本目標1 稼ぐ南牧村をつくとともに、安心して働けるようにします

【基本的な方向】

本村は、村に住み続けたいと考える若い世代が職住一体・近接で働けるよう、また、いったん村外で暮らした人が村に安心してUターンできるよう、さらに高齢期までいきいきと働けるよう、地域固有の資源を活かして仕事を創り出すむらづくりを目指します。

魅力的な仕事づくりにあたっては、耕作放棄地の活用や新規就農希望者への支援、農林畜産業における作業の効率化を図るとともに、第1次産業から第3次産業までを巻き込んだグリーンツーリズムの推進による観光振興を主要テーマとして、農林業体験などの体験型交流観光を推進します。

また、本村の基盤産業である農林畜産業等では、引き続き、事業者と連携しながら雇用の維持と特産品のブランド化に取り組みます。商業・サービス業については、高齢化の進行に伴い車を運転できない高齢者などの買い物支援も考慮し、宅配機能を強化した小売業や公的支援による商業振興を図るほか、貴重な観光資源を活用した観光振興と一体的に、小規模なビジネスを行う企（起）業誘致の取組みの充実を図ります。

【数値目標】

指 標	実績値	目標値（令和10年度）
① 南牧村を訪れる観光客数 ＜出典：長野県観光地利用者統計調査＞	34.3万人／年 （令和5年度）	40万人／年以上
② 村内に居住しながら村外で働いている理由として「南牧村に仕事がないから」と回答する割合 ＜出典：地方創生住民アンケート調査＞	31.9% （令和6年度）	30.0%以下

【具体的な施策・事業と重要業績評価指標（KPI）】

1-1 農林畜産業の振興

（1）農林畜産業経営基盤の整備

作業の効率化や負担軽減、経営の近代化・安定化を促進し、生産性の高い農林畜産業経営を実現するための基盤整備を推進します

事業・取組	重要業績評価指標	
	指 標	目標値（令和10年度）
① 農地の集積促進と耕作放棄地対策の推進	耕作放棄地の利活用面積 ＜出典：産業建設課調べ＞	2.0ha 整備 （4か年累計）

事業・取組	重要業績評価指標	
	指 標	目標値（令和10年度）
② 農業・畜産経営支援の充実	農業用廃プラスチック回収処理費用＜出典：産業建設課調べ＞	費用の1/3補助維持
③ 担い手の確保に向けた支援の充実	認定農業者数 ＜出典：産業建設課調べ＞	80人 （4か年累計）
④ 森林の保全・整備	所有者不明林解消に向けた 取組みの実施 ＜出典：産業建設課調べ＞	実施
⑤ 森林の多面的機能の活用	中学生林業体験実施回数 ＜出典：産業建設課調べ＞	年1回
	森林整備事業（森林教育・ 観光地化）の実施か所数 ＜出典：産業建設課調べ＞	1か所 （4か年累計）
⑥ 害虫・有害獣、家畜伝染病対策の推進	有害鳥獣駆除頭数 ＜出典：産業建設課調べ＞	年間800頭
⑦ AI（人工知能）、IoT（モノのインターネット）等の活用に向けた研究、導入支援	牛舎及び圃場設置 カメラ等への補助 ＜出典：産業建設課調べ＞	先進技術2件の導入 （4か年累計）

（2）農林畜産物の高付加価値化と販路拡大

ブランド化の推進や加工販売、安全・安心な農畜産物づくりへの取組みなど農産物の高付加価値化を推進するとともに、効果的な情報発信等による販路拡大を促進します。

事業・取組	重要業績評価指標	
	指 標	目標値（令和10年度）
① 農産物・畜産物のブランド化の推進	販売促進活動の実施回数 ＜出典：産業建設課調べ＞	年5回
② グリーンツーリズムの推進	農林畜産物の体験事業への参加者数 ＜出典：産業建設課調べ＞	30人 （4か年累計）
③ 直売所の充実	直売所の売上額 ＜出典：産業建設課調べ＞	2.5億円／年
④ 循環型農業の推進	堆肥化設備の整備 ＜出典：産業建設課調べ＞	1か所 （4か年累計）

（3）就農支援の充実

担い手の確保と農業の活性化に向け、村内で新たに農業をはじめたいと希望する人や法人に対する支援の充実を図り、新規就農を促進します。

事業・取組	重要業績評価指標	
	指 標	目標値（令和10年度）
① 就農に関する情報提供・相談支援	相談件数 ＜出典：産業建設課調べ＞	3件／年
② 農業法人設立・参入支援	新規設立・参入件数 ＜出典：産業建設課調べ＞	3件 （4か年累計）

1-2 観光業・商工業の振興

（1）特色を活かした観光業・商工業の振興農業を通じた交流の促進

農・商の連携を促進しながら、豊かな自然や美しい風景、高原野菜や酪農などの地域産業を活かした観光業・商工業の振興を推進します。

事業・取組	重要業績評価指標	
	指 標	目標値（令和10年度）
① 観光資源（ハヶ岳・飯盛山等）の整備	整備実施か所数 ＜出典：産業建設課調べ＞	4か所 （4か年累計）
② 新たな観光資源の発掘	新規観光資源化数 ＜出典：産業建設課調べ＞	3件 （4か年累計）
③ 登山客の誘客数	南牧三峰（赤岳・硫黄岳・横岳） における登山者数 ＜出典：産業建設課調べ＞	25,000人／年

（2）観光交流拠点・イベントの充実と情報発信

関係機関との連携強化を図りつつ、地域の特色を活かした新たな観光交流拠点やイベントの実施を推進し、より多くの観光客誘客と交流促進を図ります。また、村の魅力を効果的に発信し、村のイメージ向上を図ります。

事業・取組	重要業績評価指標	
	指 標	目標値（令和10年度）
① 新たな観光交流拠点の整備	拠点設置数 ＜出典：産業建設課調べ＞	1か所 （4か年累計）
② 特色あるイベントの充実	イベント開催数 ＜出典：産業建設課調べ＞	4回／年
③ マスメディア・SNS を活用した情報発信	SNS 記事投稿回数 ＜出典：総務課・産業建設課調べ＞	50回以上／年
④ 外国人向けの観光特化型 SNS を活用した情報発信	SNS を活用した情報発信（更新回数） ＜出典：産業建設課調べ＞	20回以上／年

事業・取組	重要業績評価指標	
	指 標	目標値（令和10年度）
⑤ 観光案内デジタルパンフレットの作成・導入	デジタルパンフレットの作成・導入 ＜出典：産業建設課調べ＞	導入
⑥ 村のイメージ向上のための取組の推進	マスコットキャラクター（着ぐるみ）の活動 ＜出典：産業建設課調べ＞	4回／年

（３）商工業経営支援の充実

新たなチャレンジや地域課題に積極的に取り組む事業者への支援の充実を図るとともに、経営指導等による経営基盤の強化を支援します。

事業・取組	重要業績評価指標	
	指 標	目標値（令和10年度）
① 新たなチャレンジを支援するための取組の推進	村内事業者新規事業支援数 ＜出典：産業建設課調べ＞	3社・団体 （4か年累計）
② 地域課題の解決に向けた取組に対する支援の充実	食料品販売店の設置数 ＜出典：産業建設課調べ＞	1か所 （4か年累計）
③ 経営の安定化に向けた支援の充実	経営改善指導や融資の各制度利用数 ＜出典：産業建設課調べ＞	5件／年

1-3 雇用・就労支援

（１）雇用の場の創出・確保

立地優位性の確立を図りつつ、企業誘致を促進することで、産業の活性化と雇用の創出を図ります。また、村の特性を活かした起業に対する支援の充実を図ります。

事業・取組	重要業績評価指標	
	指 標	目標値（令和10年度）
① 企業誘致の推進	誘致数 ＜出典：総務課調べ＞	1社 （4か年累計）
② 就農・起業支援の充実	村内での新規就農及び新規起業家数 ＜出典：産業建設課調べ＞	3人 （4か年累計）

（２）多様な働き方の創出

事業・取組	重要業績評価指標	
	指 標	目標値（令和10年度）
① サテライトオフィスの誘致	誘致数 ＜出典：総務課調べ＞	1社 （4か年累計）

基本目標2 他の地域とつながり、南牧村への新しい人の流れをつくります

【基本的な方向】

本村は、村に住み続けたいと考える人が安心して暮らし、また、いったん村外で暮らした人が村に安心してUターンすることができるよう、魅力ある居住環境や公園の整備を進めるほか、村内の空き家や未利用地の調査・把握を進め、村営住宅としての整備や転入・転居希望者への情報提供の仕組みを構築します。

また、住民相互の助け合いと連帯感の重要性を踏まえて、従来の村民同士のつながりと慣習を活かしつつ、村に住み続けたい人、村に戻って暮らしたい人、出会いを求めたい人にとって、快適なコミュニティづくりを目指します。

さらに、現在の地域間交流活動を継続、充実するとともに、外国人の受け入れ等を通じた民泊の促進やホームステイなどの新しい交流活動に取り組み、本村らしい山村の暮らしを体験する人を増やしていきます。

【数値目標】

指 標	実績値	目標値（令和10年度）
① 日本人の社会増減数（出典：住民基本台帳）	▲72人 （令和2年～5年累計）	▲30人 （4か年累計）
② 「友達や近所の人とのふれあい」に関する村の環境の満足度 （出典：地方創生住民アンケート調査）	17.8%* （令和6年度）	33.0%以上

※『満足』は、「満足」と「まあ満足」の回答を足し合わせたもの。

【具体的な施策・事業と重要業績評価指標（KPI）】

2-1 移住・交流の促進

（1）多様な交流活動の促進

他の地域の団体や観光客との交流など、多様な交流とふれあいを通じて相互の理解を深め、自らの個性を再発見する機会の充実を図ります。

事業・取組	重要業績評価指標	
	指 標	目標値（令和10年度）
① 自治体間交流の推進	交流市町村数 ＜出典：総務課調べ＞	5 市区町村
② 観光等を通じた交流人口の拡大	外国人観光客数 ＜出典：産業建設課調べ＞	1,000人／年
③ 世代間交流の促進	世代間交流を目的とした 行事の実施回数 ＜出典：教育委員会・保育園調べ＞	5 回／年

事業・取組	重要業績評価指標	
	指 標	目標値（令和10年度）
④ 多文化共生社会の推進	姉妹都市実習生関係団体との 交流回数 ＜出典：総務課・産業建設課調べ＞	1回／年
⑤ 地域おこし協力隊の受け入れ	地域おこし協力隊員受け入れ数 ＜出典：総務課調べ＞	1人

（２）コミュニティ活動の推進

地域活動が活発に行われるための支援の充実を図るとともに、より多くの村民が地域活動に参加できるための情報提供及び機会の創出を図ります。

事業・取組	重要業績評価指標	
	指 標	目標値（令和10年度）
① 地域活動団体（公民館分館・シニアクラブ等）の活動支援 ※公民館本館活動及び団体所属者が娯楽を享受するものは除く。	補助金支給団体数 ＜出典：教育委員会・社会福祉協議会調べ＞	8団体以上／年
② コミュニティ活動の拠点施設の改修整備	改修整備工事数 ＜出典：教育委員会調べ＞	5か所 （4か年累計）
③ 学校施設・社会教育施設の利用促進	延べ利用団体数 ＜出典：教育委員会調べ＞	156団体／年

（３）住宅等の整備・充実

若者の定住促進のための住宅・宅地の整備や老朽化した村営住宅の計画的な改修を推進するとともに、空き家対策の推進を図ります。

事業・取組	重要業績評価指標	
	指 標	目標値（令和10年度）
① 公営住宅の計画的な整備	村営住宅の新規建設棟数 ＜出典：産業建設課調べ＞	1棟 （4か年累計）
② 空き家対策の推進	空き家の実態調査件数 ＜出典：総務課調べ＞	10件 （4か年累計）

2-2 協働の推進

（１）情報発信・共有の推進

多様な手段により行政情報を積極的に公開・発信するとともに、村民の意見を聴く機会の充実を図り、地域における課題を村全体で共有していきます。

事業・取組	重要業績評価指標	
	指 標	目標値（令和10年度）
① 広報紙・ホームページ等による情報発信の充実	議会内容の迅速な伝達 ＜出典：総務課調べ＞	本会議から3日以内に YKTV で放送
② 議会や各種審議会・委員会の公開及び傍聴の促進	議会・各種委員会、審議会などの公開割合 ＜出典：総務課議会事務局調べ＞	100%
③ 中学生議会の開催	開催回数 ＜出典：総務課議会事務局調べ＞	1回／年
④ 村民意向の把握と参画機会の充実	行政計画策定時の住民アンケート調査実施率 ＜出典：地方創生住民アンケート＞	100%

基本目標3 若い世代の定住を促進し、結婚・出産・子育ての希望をかなえます

【基本的な方向】

本村は、妊娠・出産期の支援、保育サービスをはじめとした子ども・子育て支援、学校教育について切れ目の無い支援を実施しています。また、子どもたちに農林業体験やボランティア体験、サマーキャンプ、中学生の海外派遣など、充実した学習・体験活動の機会を提供しており、今後もこれらの取組みの継続と充実に努めます。一方で、本村では少子化により1校あたりの人数が減少してきており、子どもの健やかな成長にとって、また、地域の特色ある教育を推進するにあたっての適正な規模や設置の在り方について、引き続き検討を進めていく必要があります。

また、出生や進入学時の節目、通学等にかかる費用など、子育て家庭に対する経済的な支援制度を継続して負担軽減に努めるとともに、男女の多様な働き方の普及を通じて、ワーク・ライフ・バランスの実現を図ります。

【数値目標】

指 標	実績値	目標値（令和10年度）
① 合計特殊出生率 ＜出典：住民課調べ＞	1.66 (令和5年度)	1.61
② 「子育て支援・教育環境の充実」に関する村の環境の満足度 ＜出典：地方創生住民アンケート調査＞	32.0% ^{※1} (令和6年度)	35%以上
③ 「南牧村に住みたい」との回答割合 ＜出典：地方創生住民アンケート調査＞	40.6% ^{※2} (令和6年度)	45%以上

※1 「満足」と「まあ満足」の回答を足し合わせたもの。

※2 「これからもずっと南牧村に住みたい」と「将来、進学・就職・転職等で南牧村を離れると思うが、いつかは戻って住みたい」の回答を足し合わせたもの。

【具体的な施策・事業と重要業績評価指標（KPI）】

3-1 子ども・子育て支援の充実

（1）きめ細かな保健サービスの充実

妊娠期から乳幼児期において、状況に応じた適切な指導や情報提供に努めます。また、発達の遅れや心配がある子どもについて、関係機関と連携を図りながら、早期療育につなげるための支援を行います。

事業・取組	重要業績評価指標	
	指 標	目標値（令和10年度）
① 母子保健の推進 ＜出典：住民課調べ＞	不妊治療・不育治療 支援継続	全員に支給
	新生児訪問実施率 （生後3か月以内に全戸訪問）	100％／年

（２）子育て支援の充実

子どもたちが心身ともに健やかに成長し、安心して子育てをすることができるよう、地域全体で子育て・子育てを支えるむらづくりを進めます。

事業・取組	重要業績評価指標	
	指 標	目標値（令和10年度）
① 仕事と子育ての両立支援の充実	保育所・放課後児童クラブの 待機児童数 ＜出典：住民課調べ＞	0人維持
② 子育てにかかる経済的支援の充実	出産祝金、入学祝金、 卒業祝金の支給継続 ＜出典：総務課、住民課調べ＞	全員に支給
③ 子育ての孤立化防止と育児不安の解消	幼児の親同士の交流の場 （コアラの広場）の開催回数 ＜出典：住民課調べ＞	1回／月 （開催継続）

3-2 学校教育の充実

（１）社会を生き抜く力の養成

確かな学力、豊かな心、健やかな体の知・徳・体をバランスよく育み、一人ひとりの個性・能力を伸ばす教育を推進します。

事業・取組	重要業績評価指標	
	指 標	目標値（令和10年度）
① 豊かな人間性の育成	村内小中学校の 交流学习の実施回数 ＜出典：教育委員会調べ＞	4回／年 （小中学校併せて）
② 個性を伸ばすきめ細かな教育の推進	授業に ICT を活用する等 現代教育の推進 ＜出典：教育委員会調べ＞	小中学校教員 アンケート数値50%
③ 子どもの健康づくりと体力の向上	運動不足解消事業の実施回数 （体育の授業は除く） ＜出典：教育委員会調べ＞	3回／年 （各校）

（２）学校教育環境の充実

児童生徒が安心して学ぶことができる質の高い教育環境の整備・充実を計画的に推進します。

事業・取組	重要業績評価指標	
	指 標	目標値（令和10年度）
① 相談体制の強化	SC（スクール・カウンセラー）や SSW（スクール・ソーシャル・ ワーカー）の各学校への配置 ＜出典：教育委員会調べ＞	配置継続
② 学校施設・設備の整備・充実	学校施設・設備の大規模修繕及び改 修箇所 ＜出典：教育委員会調べ＞	5 か所 （4 か年累計）
③ 南牧村にふさわしい小中一貫教育の 推進	小中一貫教育の導入 ＜出典：教育委員会調べ＞	推進継続

（３）家庭・地域・学校の連携強化

児童生徒の健やかな成長に向け、家庭とのさらなる連携・協働を図るとともに、地域ぐるみで進める開かれた学校運営を推進します。

事業・取組	重要業績評価指標	
	指 標	目標値（令和10年度）
① 地域との連携強化	校外村内学習による授業回数 ＜出典：教育委員会調べ＞	5 回／年
② 地域との協働による学校運営の推進	信州型コミュニティスクールの 講師・ボランティア登録者数 ＜出典：教育委員会調べ＞	120人

（４）特色ある教育・保育の推進

時代の変化に対応しつつ、豊かな自然や地域の産業、さらには村の規模など、村の特色や強みを活かした一貫性のある教育を推進します。

事業・取組	重要業績評価指標	
	指 標	目標値（令和10年度）
① 国際化・情報化に対応した教育の 推進	中学3年生英語検定 4級以上の保有率 ＜出典：教育委員会調べ＞	60%以上／年 （中学3年生徒）
	中学3年生英語検定 3級以上の保有率 ＜出典：教育委員会調べ＞	30%以上／年 （中学3年生徒）

3-3 仕事と生活の調和

(1) 男女共同参画の促進

男女がそれぞれの能力と個性を十分に発揮でき、互いに尊重し合い、責任を分かちあうとともに、家庭や社会のあらゆる分野でともに参画できるむらづくりを進めます。

事業・取組	重要業績評価指標	
	指 標	目標値（令和10年度）
① 政策決定過程における女性参画の推進	村議会・教育委員会・ 農業委員会・民生児童委員協議会・ 公民館運営協議委員会における 女性委員の参画割合 ＜出典：教育委員会調べ＞	100%

基本目標4 ひとが集う、安全で安心に暮らせる魅力的な南牧村をつくります

【基本的な方向】

本村は、村民が安全、安心に暮らせるよう、様々な対策に取り組んでいます。

防災面では、防災・消防施設の整備・充実を図るとともに、人口減少と少子高齢化に伴う消防団員の高齢化を踏まえ、自主防災組織の充実や広域連携の推進など、将来に向けた体制づくりに努めます。

公共交通については、観光客の利便のほか、子どもや高齢者をはじめとした住民の日常生活の利便に直結するものとして、JR小海線や福祉バス、野辺山駅周辺観光バスの運行の維持管理に努めるとともに、生活道路を運行する巡回バスの充実やデマンド交通などの新交通システムを検討します。

また、本村の財産である豊かな自然景観を保全しながら、自然環境を有効に活用・創造していくことも本村の重要な課題の一つとなっています。

村民がいつまでも元気でいきいきと暮らせるよう、平均寿命・健康寿命の延伸に向けて医療・保健・福祉の充実を図りながら、村外も含めた多様な地域・世代の人々が本村の良さを発見・再認識し、愛着や誇りを持ち、魅力を感じて生活することのできる地域づくりを推進していきます。

【数値目標】

指 標	実績値	目標値（令和10年度）
①「日常の買い物等の利便さ」に関する村の環境の満足度 ＜出典：地方創生住民アンケート調査＞	7.1%* （令和6年度）	15%以上
②「村の景観や周辺の景色」に関する村の環境の満足度 ＜出典：地方創生住民アンケート調査＞	76.1% （令和6年度）	75%以上
③「南牧村は住みやすい村だと思う」との回答割合 ＜出典：地方創生住民アンケート調査＞	37.1% （令和6年度）	50%以上

※「満足」と「まあ満足」の回答を足し合わせたもの

【具体的な施策・事業と重要業績評価指標（KPI）】

4-1 安全対策の充実

（1）防災・消防・救急体制の強化

住民の生命・財産を守るために、消防救急体制と設備の整備を図るとともに、災害に強いむらづくりに向けた防災体制の強化を図ります。

事業・取組	重要業績評価指標	
	指 標	目標値（令和10年度）
① 防災・消防施設の整備・充実	消火栓・防火水槽等の整備 ＜出典：総務課調べ＞	2箇所／年

事業・取組	重要業績評価指標	
	指 標	目標値（令和10年度）
② 広域連携の推進	民間企業との相互応援協定締結数 ＜出典：総務課調べ＞	3 件 （4 か年累計）
③ 消防団・自主防災組織の充実と活動の推進	消防団のあり方の検討を実施 ＜出典：総務課調べ＞	1 回／年

（2）防犯・交通安全対策の充実

自分たちの地域は自分たちで守る犯罪のない村を目指し、地域ぐるみの防犯体制を強化します。また、道路や交通安全施設の整備、交通安全の啓発など、交通事故ゼロのむらづくりを目指します。

事業・取組	重要業績評価指標	
	指 標	目標値（令和10年度）
① 防犯・交通安全についての知識の普及と意識啓発	イベント等を活用した啓発活動の実施回数 ＜出典：総務課調べ＞	2 回／年
	交通安全協会・防犯協会による各種教室の開催 ＜出典：総務課調べ＞	2 回／年
② 交通安全施設・防犯環境の整備	防犯灯のLED化 ＜出典：総務課調べ＞	100%

4-2 交通の利便性の充実

（1）公共交通の確保

子どもや高齢者、観光客の移動手段の確保及び環境負荷の軽減に向け、JR 小海線の運行の維持・充実を図るとともに、きめ細かな公共交通システムの導入を検討します。

事業・取組	重要業績評価指標	
	指 標	目標値（令和10年度）
① JR 小海線の活性化促進 （出典：産業建設課調べ）	利用促進に向けたイベント等の実施	1 回／年
② きめ細かな公共交通システムの導入検討	巡回バスやデマンド交通等の新交通システムの導入検討会議の開催 ＜出典：総務課調べ＞	開催

4-3 環境保全・衛生

(1) 自然環境の保護

豊かな自然を将来にわたって維持できるよう、八ヶ岳中信高原国定公園の区域や村が定めた自然環境保全地区をはじめとした自然環境の保全と創造を図ります。

事業・取組	重要業績評価指標	
	指 標	目標値（令和10年度）
① 環境保全活動の促進	各種団体・村民参加の 環境保全活動の実施回数 ＜出典：産業建設課調べ＞	6回／年

(2) 資源循環型社会の推進

豊かな自然環境を守る仕組みとして、村の気候や産業の特性を活かしつつ、環境負荷の少ない資源循環型社会を推進します。

事業・取組	重要業績評価指標	
	指 標	目標値（令和10年度）
① 再生可能エネルギー活用推進	バイオマスエネルギー導入 促進施策の実施 ＜出典：産業建設課調べ＞	導入・実施 （4か年累計）

(3) 上下水道の整備

良質な水を安定して供給するため、水源の確保や施設の適正な維持管理、災害時の対策を進めるとともに、河川の汚濁防止と快適な居住環境の確保に向けて下水道事業の推進を図ります。

事業・取組	重要業績評価指標	
	指 標	目標値（令和10年度）
① 施設・設備の適正な維持管理	上下水道施設の耐震化 ＜出典：産業建設課調べ＞	100%

4-4 居住環境

(1) 自然と調和した景観の形成

魅力のある住民生活の実現と観光地の創造に向けて、自然・農村景観、歴史・文化と調和した美しい景観形成・保全の取組みを促進します。

事業・取組	重要業績評価指標	
	指 標	目標値（令和10年度）
① 景観に対する意識の醸成	美しいむらづくり条例の認知度 ＜出典：地方創生住民アンケート調査＞	70%

4-5 医療・保健・福祉の充実

(1) 地域医療の充実

予防と早期治療に重点を置いた診療所体制の維持・充実とともに、病診連携による地域医療の充実、休日・夜間医療と救急医療体制の強化を図ります。

事業・取組	重要業績評価指標	
	指 標	目標値（令和10年度）
① 診療所の充実 （出典：住民課調べ）	24時間365日の訪問看護 提供体制の維持	維持

(2) 自主的な健康づくりの推進

健康に関する正しい知識の普及と意識啓発や健康づくりに取り組みやすい環境づくりを推進し、自主的な健康づくりを促進します。また、一人ひとりの心身の状況把握に努めつつ、疾病予防や早期発見・早期対応につなげるためのきめ細かな相談指導の充実を図ります。

事業・取組	重要業績評価指標	
	指 標	目標値（令和10年度）
① 健康づくり活動の促進	要介護出現率 ＜出典：住民課調べ＞	17.6% 以下
② 健康診査・各種検診の受診促進	特定健診受診率 ＜出典：住民課調べ＞	66%以上

(3) 能力を発揮できる場の創出

誰もが生きがいをもっていきいきと暮らしていくことができるよう、一人ひとりの意欲や状態に応じて能力を最大限発揮できる場の充実を図ります。

事業・取組	重要業績評価指標	
	指 標	目標値（令和10年度）
① 高齢者の活動の場の充実	行き活き農村広場の活動への 延べ参加者数 ＜出典：社会福祉協議会調べ＞	延べ参加人数 1,200人 / 年

(4) 地域支え合い体制の強化

住民が住み慣れた地域で安心して暮らせる村を目指し、支援が必要な人を地域ぐるみで支える体制の強化や仕組みの構築を推進します。

事業・取組	重要業績評価指標	
	指 標	目標値（令和10年度）
① 包括的な支援体制の構築	生活全般の多様で複合的な課題に 対する包括的な支援体制の構築 ＜出典：住民課調べ＞	継続

（５）福祉サービスの充実及び相談支援体制の強化

きめ細かな福祉ニーズに対応できるよう、多様な主体による質の高いサービス提供体制の確保・充実を図ります。また、関係機関との連携を強化しながら、一人ひとりの状況に応じた適切な支援につなぐケアマネジメントの充実を図るとともに、相談窓口の周知と体制強化を図ります。

事業・取組	重要業績評価指標	
	指 標	目標値（令和10年度）
① サービスの質の向上	運営指導等の件数 ＜出典：住民課調べ＞	4件 （4か年累計）
② 地域包括支援センターの充実	地域ケア会議の開催 ＜出典：住民課調べ＞	6回／年
③ 介護家族への支援の充実	オレンジカフェ ＜出典：住民課調べ＞	1回／月
	認知症講演会 ＜出典：住民課調べ＞	1回／年
	家族介護者交流会 ＜出典：住民課調べ＞	2回／年

（６）人権の尊重と権利擁護

すべての村民の人権が尊重され、一人ひとりが持つ権利が守られるよう、虐待や暴力、いじめ、差別などのあらゆる人権侵害を起こさせない地域社会の形成と、地域全体で見守り、対応するための体制づくりを推進します。

事業・取組	重要業績評価指標	
	指 標	目標値（令和10年度）
① 人権意識の醸成	人権大会の開催 ＜出典：住民課調べ＞	1回／年
② 権利擁護の推進	成年後見制度や権利擁護についての啓発活動回数 ＜出典：住民課調べ＞	1回／年

（７）セーフティネットの確保

すべての村民における最低限の生活を保障するため、社会保障における各種制度の適正な運用を図るとともに、住まい、生活資金の確保や自立生活に向けた就労支援を行います。

事業・取組	重要業績評価指標	
	指 標	目標値（令和10年度）
① 住まい及び生活資金の確保支援	生活資金の相談受付件数 ＜出典：住民課調べ＞	5件／年

4-6 生涯学習・スポーツ

(1) 生涯学習・スポーツの充実

村民が生涯にわたり、興味・関心や能力・体力に応じて学習し、スポーツ等に親しむことができる環境づくりを推進します。

事業・取組	重要業績評価指標	
	指 標	目標値（令和10年度）
① 文化活動・スポーツ活動の促進	文化・スポーツ教室への 延べ参加者数 ＜出典：教育委員会調べ＞	180人／年

(2) 地域文化の振興

歴史的遺産や伝統行事の保護・継承と活用、良質の芸術文化に触れる機会の充実を図るとともに、村の魅力を再認識し、愛着や誇りを感じることで文化の振興を推進します。

事業・取組	重要業績評価指標	
	指 標	目標値（令和10年度）
① 文化財の保存と活用	小中学校における文化財の啓発活動 ＜出典：教育委員会調べ＞	1回／年
② 芸術文化に触れる機会の充実	美術民俗資料館の来場者数 ＜出典：教育委員会調べ＞	4,800人／年

第4章 総合戦略の推進と効果検証の仕組み

1 推進と効果検証の仕組み

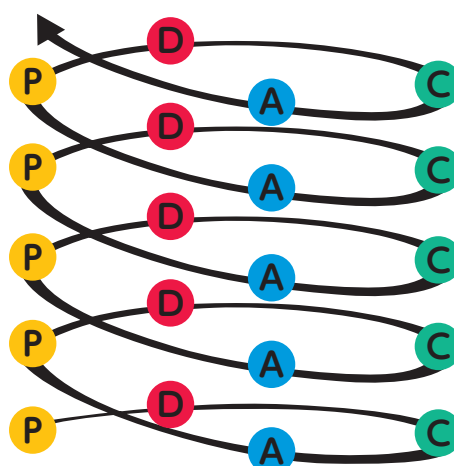
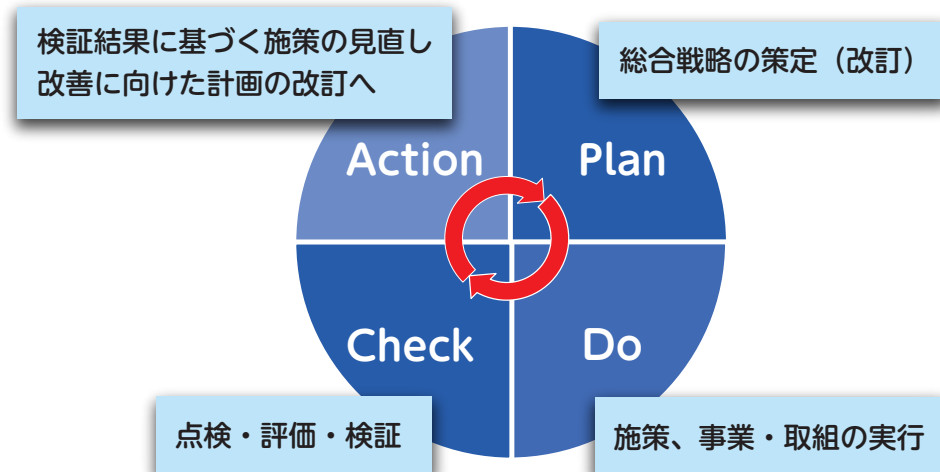
第三期南牧村総合戦略の推進にあたっては、施策・事業を実施し、その進捗・達成状況を評価・検証して改善につなげる PDCA サイクルによる管理を行います。特に、この戦略には基本目標ごとの数値目標に加え、重要業績評価指標（KPI）を設定しており、実現すべき成果（アウトカム）を重視した客観的な効果検証を図ります。

（1）PDCA サイクル

PDCA サイクルによる管理の考え方は、次のとおりです。

- **Plan**：数値目標・客観的な指標を定めた第三期南牧村総合戦略の策定
- **Do**：総合戦略に基づく施策、事業・取組の実行
- **Check**：数値目標や客観的な指標の達成度を通じ、総合戦略の成果を客観的に検証
- **Action**：検証結果に基づいて施策等を見直し、必要に応じて総合戦略を改訂

■ PDCA サイクルによるマネジメント



(2) 推進体制

- 村長を本部長とする「南牧村まち・ひと・しごと創生総合戦略推進本部」において、全庁的な推進体制により横断的に情報共有や事業の検討を行いながら、事業の着実に効果的な実施に取り組みます。
- 戦略の実施にあたっては、各施策及び事業に関係する地域住民、自治会、民間企業などと行政が一体となり、各々の役割分担を明確にし、より高い成果を上げられるよう取り組みを進めます。

(3) 評価・検証体制

- 第三期南牧村総合戦略では、産官学金労言（産業界、関係行政機関、教育機関、金融機関、労働団体、メディア、土業等）で構成する検証機関（南牧村総合戦略推進協議会）を組織し、本戦略の推進にあたっての意見聴取のほか、本戦略の達成度の検証を実施し、広く公表します。また、住民代表の団体等に検証結果を報告することで、本戦略の着実な実施につなげていきます。

2 計画のフォローアップ

この第三期南牧村総合戦略の初版を基本に、国が開発した「地域経済分析システム」による詳細な経済分析を加味するなど、随時、必要な見直し・改訂を行っていきます。また、取り組みの推進にあたっては、地方創生に関する交付金等の国の財政支援や人的支援の制度を含め、国の支援制度を積極的に活用していくこととします。

南牧村人口ビジョン・
第三期南牧村まち・ひと・しごと創生総合戦略
令和7年3月

発 行	南牧村
企画・編集	南牧村役場総務課
住 所	〒384-1302 長野県南佐久郡南牧村大字海ノ口1051番地
T E L	0267-96-2211（代表）
F A X	0267-96-2158
U R L	http://www.minamimakimura.jp/

